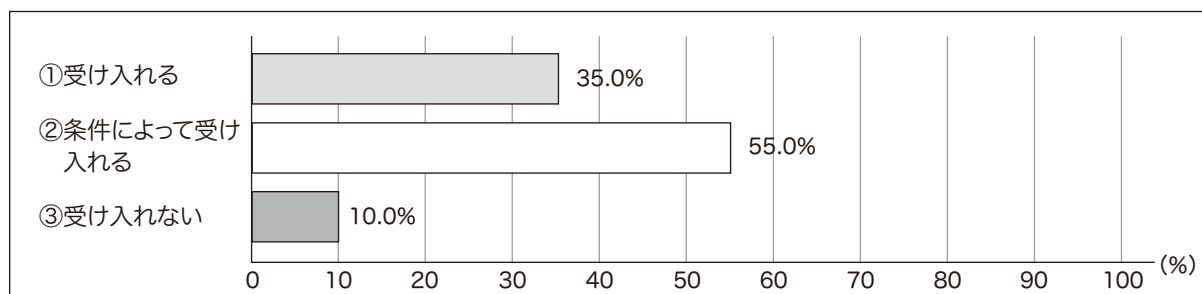


デュアル教育・企業アンケート調査集計表(施工)

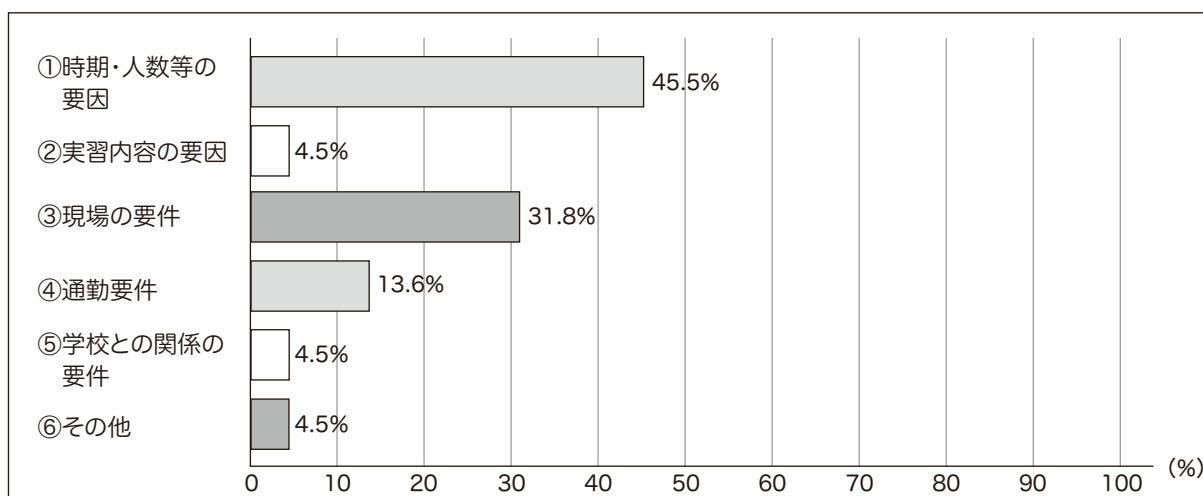
回答企業:40社

I インターンシップの受入について

1.学校からインターンシップの依頼があったとき、貴企業では、受け入れていただけますか。



2.「1」で「②条件によって受け入れる」と回答した企業にお尋ねします。どんな条件であれば、受け入れていただけるか。(複数回答)



①時期・人数等の要因

業務の状況、時期、期間、人数により検討する。

②実習内容の要因

「施工管理」は、業務の80%がデスクワークになるが、その前提で希望があるなら受け入れる。

③現場の要件

実習に適した現場があるかどうかで検討する。現場の工程が実習に適しているかで検討する。

④通勤要件

現場・作業所まで通勤できる学生なら検討する。現場までの送り迎えをしなくてはならないのなら、長期間は難しい。

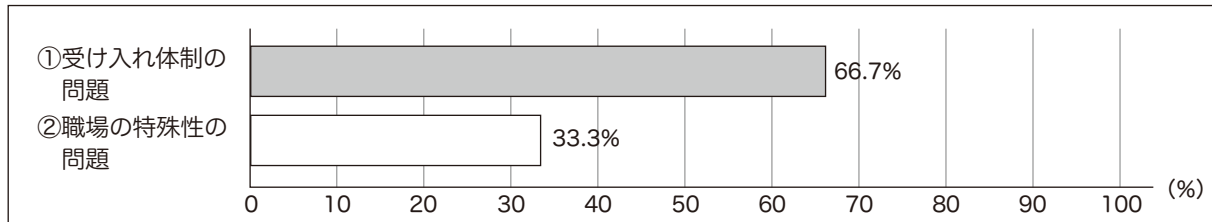
⑤学校との関係の要件

卒業生の存在やこれまでの学校との関係によって検討する。

⑥その他

企業内実習について、理解を深めてから、受け入れる。

3.「1」で「③受け入れない」と回答した企業にお尋ねします。



①受入体制の問題

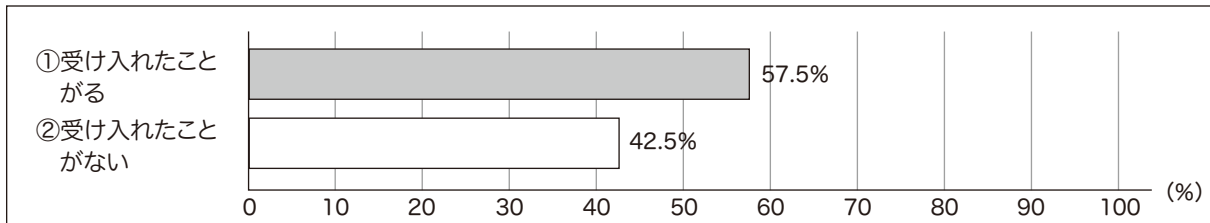
企業規模が小さいので、受け入れ態勢が整っていないため。

②職場の特殊性の問題

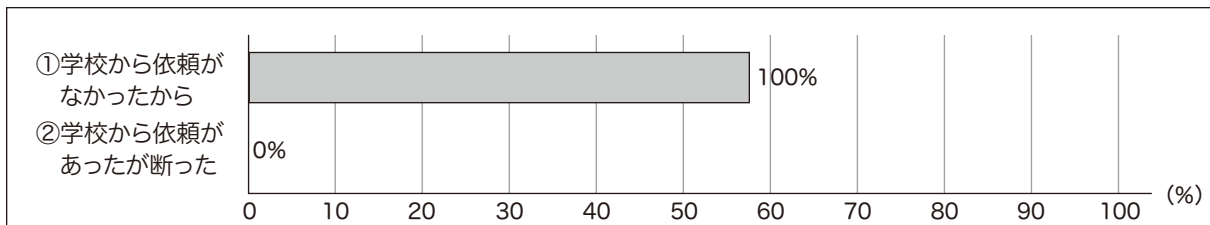
特殊な工事のため、一般人は現場に入れない。

II インターンシップ受入実績について

1.これまでインターンシップを受け入れたことがありますか。



2.「1」で「②受け入れたことがない」と回答した企業にお尋ねします。

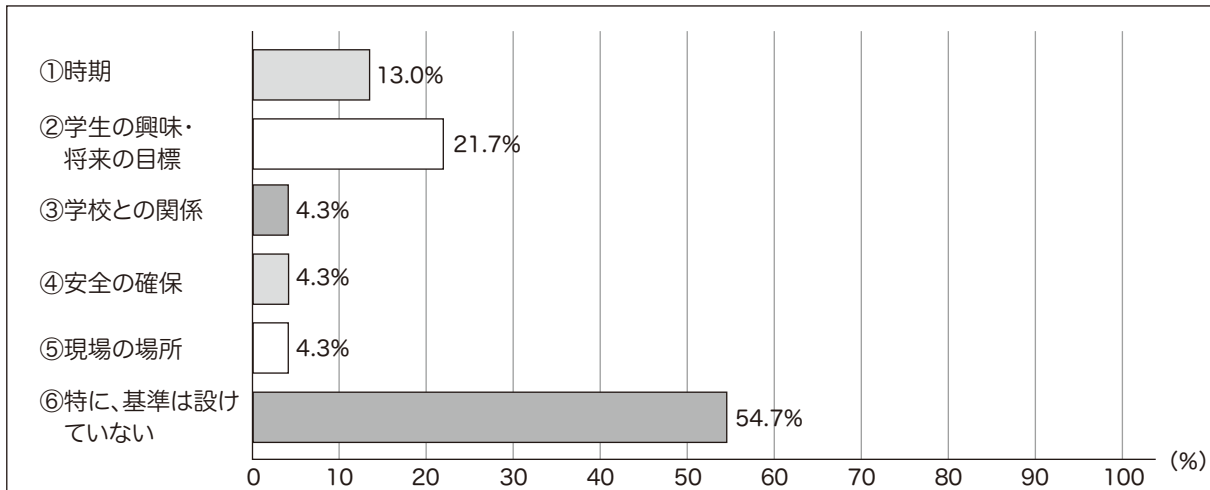


Ⅲ インターンシップ受入企業の創意工夫について

「Ⅱ」の「1」で「①受け入れたことがある」と回答した企業にお尋ねします。

1. インターンシップ受入の基本的な考え方

ア 貴企業がインターンシップを受け入れるかどうかを判断する基準のようなものを設けていますか。設けている場合はその基準の概要をお書きください。



①時期

繁忙期でなければ検討する。現場の状況により検討する。

②学生の興味・将来の目標

当社の行っている工事に興味があるかどうか。建設業に興味のある学生・目指す学生であること。施工管理に興味のある学生・目指す学生であること。

③学校との関係

学校と信頼関係があるかどうか。

④安全の確保

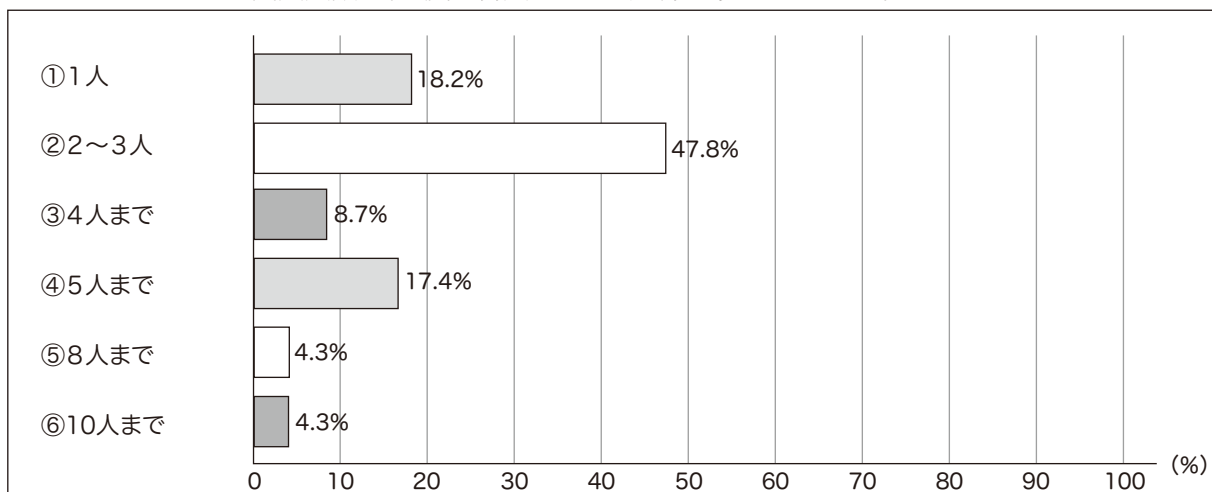
安全面での配慮を多くしなくてもよい現場があるかどうか。

⑤現場の場所

学校の近くに現場があるかどうか。

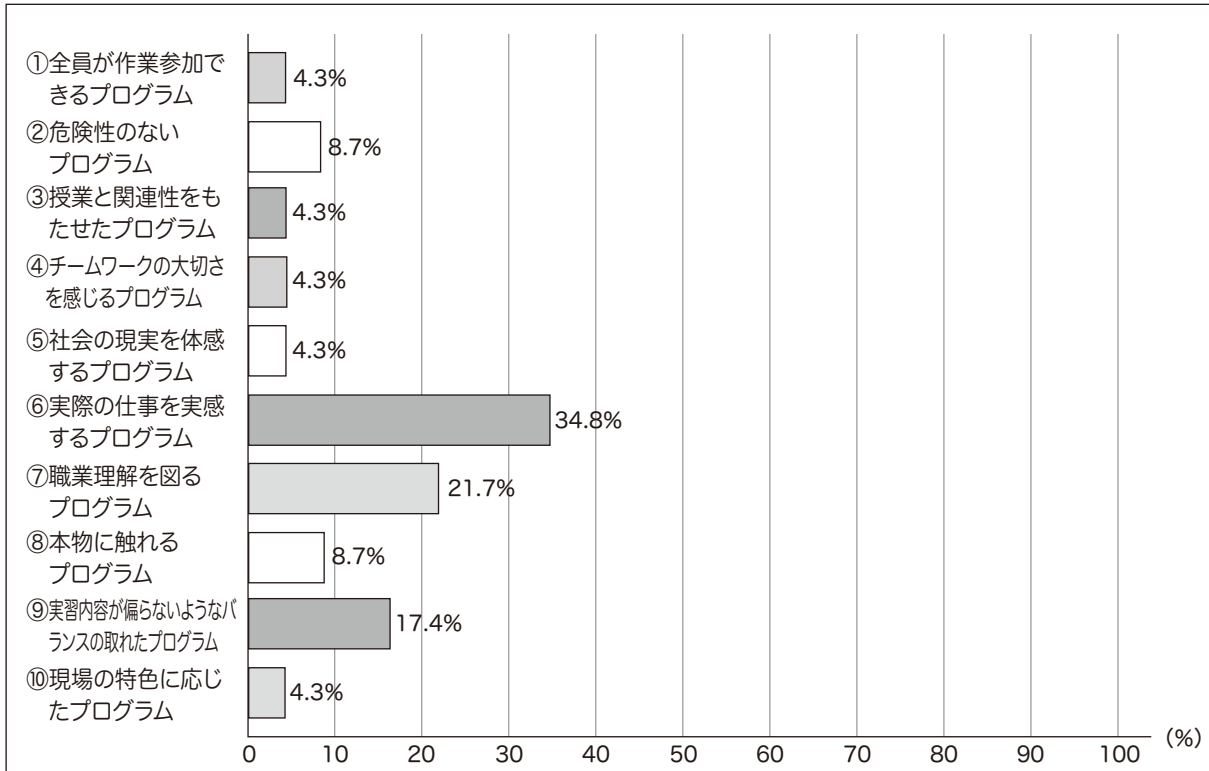
⑥特に、基準は設けていない。

イ インターンシップ受入人数は、一度に何人ぐらいが適切と考えていますか。



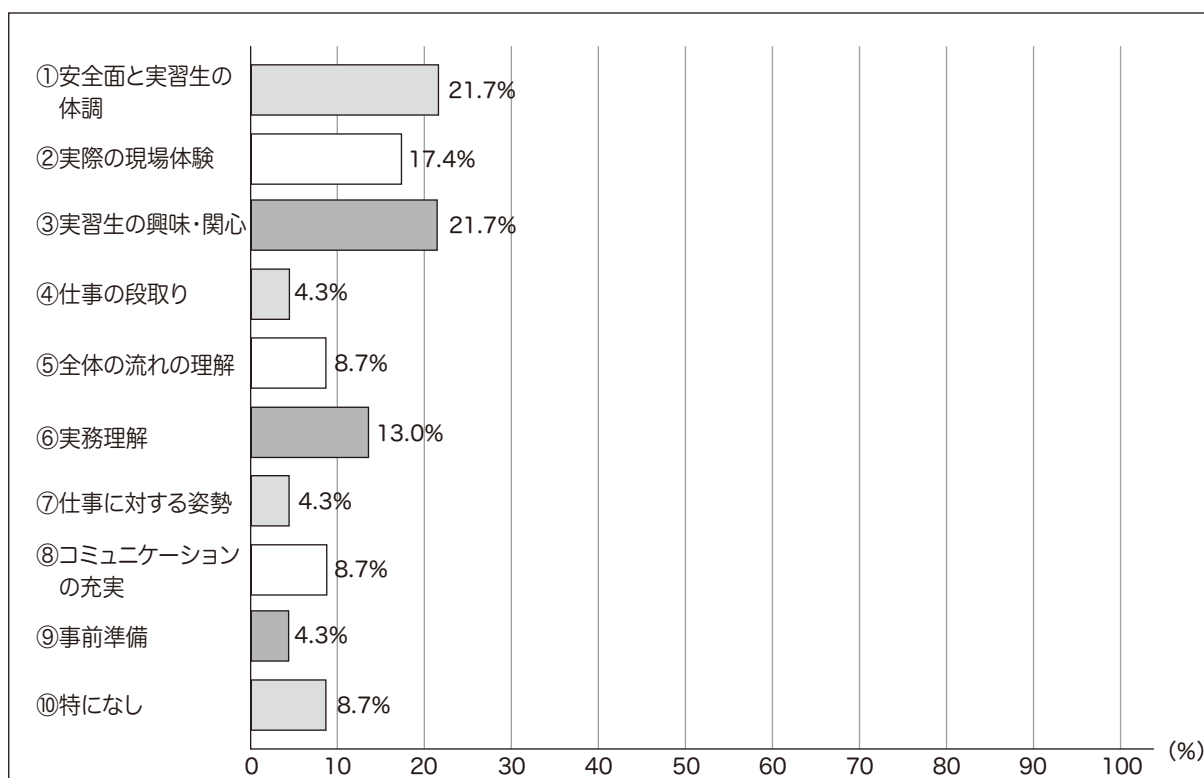
2. インターンシップの活動プログラムの工夫

ア インターンシップを実施する際、どのような考え方で活動プログラムを作っていますか。(複数回答)



- ① 全員が作業参加できるプログラム
見学している実習生がないようにする。
- ② 危険性のないプログラム
危険性はないか、安全第一を指導する。実習生の体調も配慮して指導する。
- ③ 授業と関連性をもたせたプログラム
授業と関連性のある仕事を計画する。
- ④ チームワークの大切さを感じるプログラム
職場のチームワークの大切さを感じ取る活動を計画する。
- ⑤ 社会の現実を体感するプログラム
作業をしながら、学校と社会の違いを感じ取る活動を計画する。
- ⑥ 実際の仕事を実感するプログラム
就職のミスマッチを起こさないよう、仕事の実態を体験できるような活動を計画する。机上で学べない活動を取り入れる。施工管理業務体験や実際の作業体験、最新機器を使った技術体験を取り入れる。実際の作業所での作業工程に沿った作業を行うよう、計画する。
- ⑦ 職業理解を図るプログラム
職業と企業を理解し、学業と進路の決定に参考となる活動に重点を置く。自社の仕事を少しでも理解してもらえるような活動を計画する。
- ⑧ 本物に触れるプログラム
学生たちが本物のプロフェッショナルな仕事に触れ、職業として憧れを抱くような活動を取り入れる。作業補助ではなく監督補助として参加する活動を計画する。
- ⑨ 実習内容が偏らないようなバランスの取れたプログラム
内業と外業のバランスの取れた活動を計画する。できるだけ幅広い内容を体験できるよう計画する。多様な現場を体験で来るよう計画する。
- ⑩ 現場の特色に応じたプログラム
工事の受注状況により現場が違うので、柔軟に変化させる。

イ その際、最も重視されることは、どんなことですか。(複数回答)



①安全面と実習生の体調

実習生の体調に気を配り実習を実施すること。安全管理の講習を事前に実施すること。

②実際の現場体験

実際の現場の空気を体験させること。実際に体験し、実感させること。現場の高度な思考、技術、技能を実感させること。

③実習生の興味・関心

実習生が建設現場に関心を持つよう工夫すること。積極的に参加するカリキュラムの工夫すること。施工管理、ものづくりの楽しさを実感する活動を計画すること。

④仕事の段取り

仕事の段取りをしている場面を体験させること。

⑤全体の流れの理解

工事全体の流れを理解する体験を計画すること。工事工程の順序により体験を行うよう、計画すること。

⑥実務理解

職員の職務・実務を理解できるカリキュラムを設定すること。建設業を的確に理解するカリキュラムを設定すること。

⑦仕事に対する姿勢

仕事に対する姿勢に気づくカリキュラムを設定すること。

⑧コミュニケーションの充実

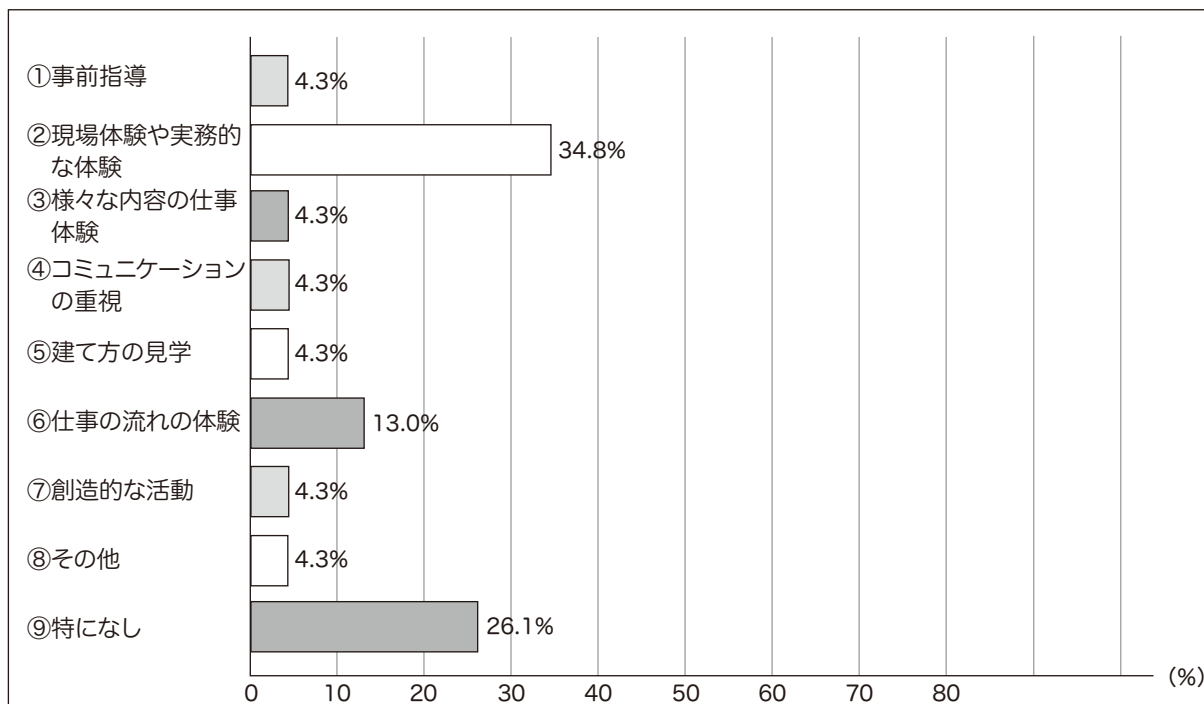
質問等のコミュニケーションの機会を設定すること。意思伝達の重要性を理解できる活動を設定すること。

⑨事前準備

期間内にできる内容とポイントを事前に検討し、準備しておくこと。

⑩特になし

ウ これまで、効果的であると感じられたのは、どのようなプログラムですか。また、そのプログラムによって、どのようなことを学んだと思われますか。



①事前指導

実習の前に半日程度、企業の特徴、作業内容、安全教育、機械類の取扱などについて説明してから実習に入るプログラム→そのことにより、初めて見る機械に興味や疑問を示し、実習への動機づけになる。

②現場体験や実務的な体験

据付から高さを測る体験等のプログラム→そのことにより、ものづくりは、現場で行われていると実感する。

V R (仮想現実)体験プログラム→そのことにより、実際の仕事内容を理解する。

測量実習プログラム→そのことにより、現場と学校との違いを学ぶ。

トランシットやレベルなどの現場管理作業プログラム→そのことにより、実務は難しいが、楽しいことを学ぶ。

ドローン測量から解析までの作業体験プログラム→そのことにより、実際に体験することで実感できる。また、最新の施工管理技術の進歩を学ぶ。

コンクリートの数量計算プログラム→そのことにより、施工管理業務を実感できる。

鉄筋の結束プログラム→そのことにより、建設現場の工程の流れを理解できる。

③様々な内容の仕事体験

ほぼ毎日、違った体験を行うプログラム。→そのことにより、変化に対応する大切さを感じ取る。

④コミュニケーションの重視

職員をはじめ、作業にかかわる人と直接に会話する時間を設定するプログラム→そのことにより、立場ごとのメリット、デメリットを理解し、将来の目標設定に繋がる。

⑤建て方の見学

木造や鉄骨の建て方を見学するプログラム。→そのことにより、建物が出来上がる楽しさを学ぶ。

⑥仕事の流れの体験

合板製造から発注、現場周辺へのP R、設計現場作業と工事に係るすべてを流れとして指導するプログラ→そのことにより、仕事にどのような人がかかわり、どのような流れで進むのかを理解できる。

準備段階より仕上げ(完成)までを流れの中で一貫して体験するプログラム→仕事の流れの中で前後の関連性、一つ一つのつながり、役割、ポイントが自然に会得できる。

⑦創造的な活動

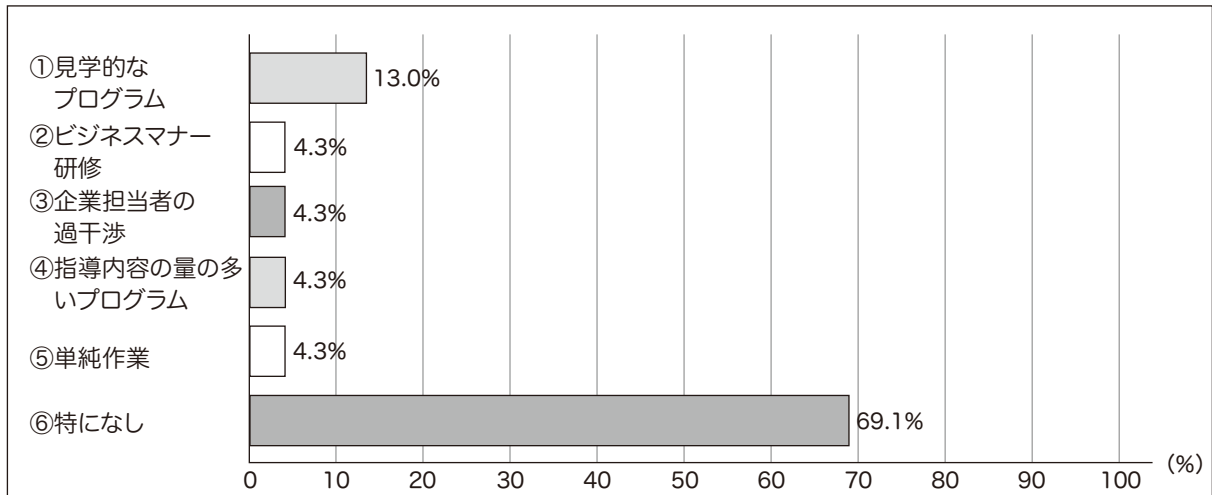
事務所から居室へのプラン変更する計画図の作成プログラム。→そのことにより、計画性が育つ。

⑧その他

現場の進捗によって、効果的な活動は変わってくる。

⑨特になし

エ 「よくなかった」「実施しないほうがよい」と思われたのは、どのようなプログラムがありましたか。



①見学的なプログラム

現場パトロールを見るだけのもの。いくつかの現場を見学会のように体験するものは、実感がわからない。

②ビジネスマナー研修

社会に出ると必要な名刺交換などの基本的ビジネスマナー研修を実施したが、学生は意欲的ではなかった。

③企業担当者の過干渉

企業の担当者が口を出しすぎると、実習生の自主性が抑制される。

④指導内容の量の多いプログラム

指導内容が多すぎると、理解されないまま進んでいく。

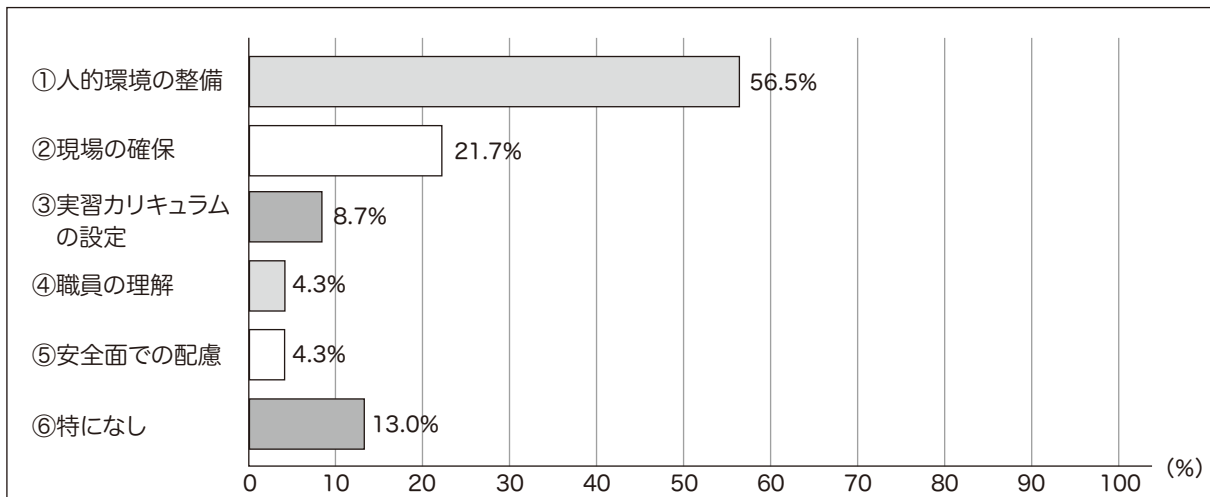
⑤単純作業

単純作業の繰り返しは、実習生の活動意欲を低下させ、職業に対する魅力も失わせる。

⑥特になし

3.受入体制の工夫

ア 受入れにあたって、企業内ではどのような体制が必要ですか。(複数回答)



①人的環境の整備

学生をサポートする適当な人員の確保すること。余裕をもって指導できる体制の確立すること。若手の講習担当者を確保すること。複数の職員による対応体制の整備すること。

②現場の確保

実習生のための適切な現場の確保をすること(距離、進捗状況等)。ある程度の大きな現場を用意する必要がある。

③実習カリキュラムの設定

実習生用の業務計画を作成すること。

④職員の理解

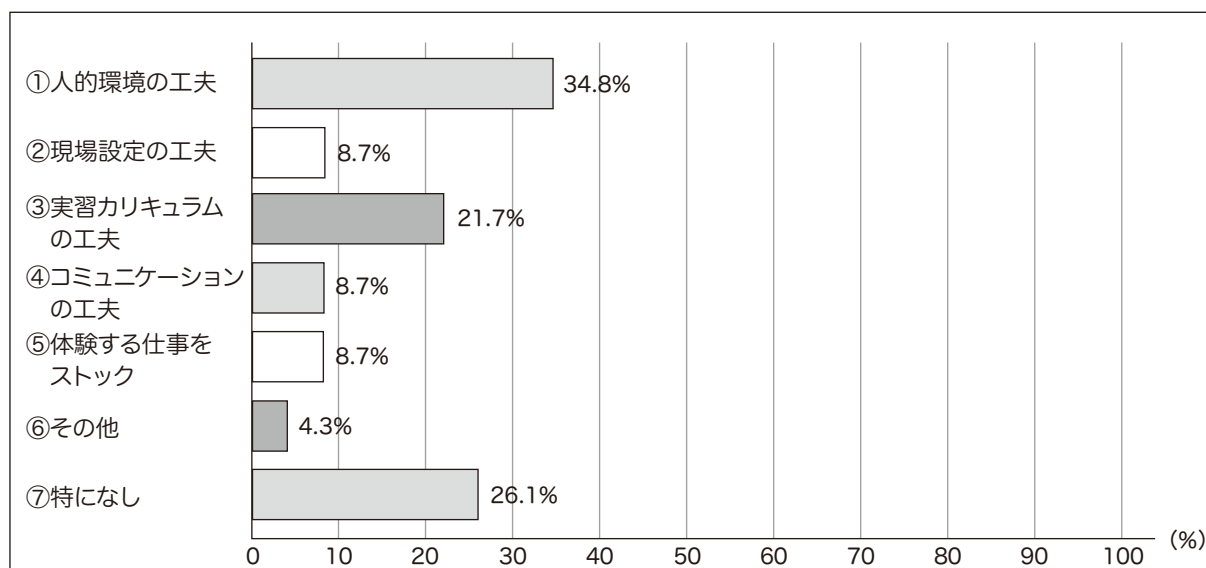
実習を受け入れる受入にあたって、実習方法等について職員の理解を得ておくこと。

⑤安全面での配慮

安全確保のために活動場所や内容について検討しておくこと。

⑥特になし

イ 受入体制で、工夫されたことはどんなことですか。(複数回答)



①人的環境の工夫

適切な指導担当者を配置した。若手職員にも担当させ、職員にも理解を深める機会とした。受け入れる学生と年齢の近い社員を担当者とした。専属職員を配置する。

②現場設定の工夫

できるだけ近くで、交通機関が整っている現場で受け入れられるよう配慮した。工期・工程等を踏まえ、効果的に実習が行える作業所を確保した。

③実習カリキュラムの工夫

飽きず、楽しく実習する計画を工夫した。現場と図面の両方の実習ができるよう工夫した。

④コミュニケーションの工夫

疑問に思ったことは、その場で質問するような雰囲気づくりを行った。社員に実習生に積極的に声掛けするよう、周知した。

⑤体験する仕事をストック

実習に使う仕事を調整しておくこと。

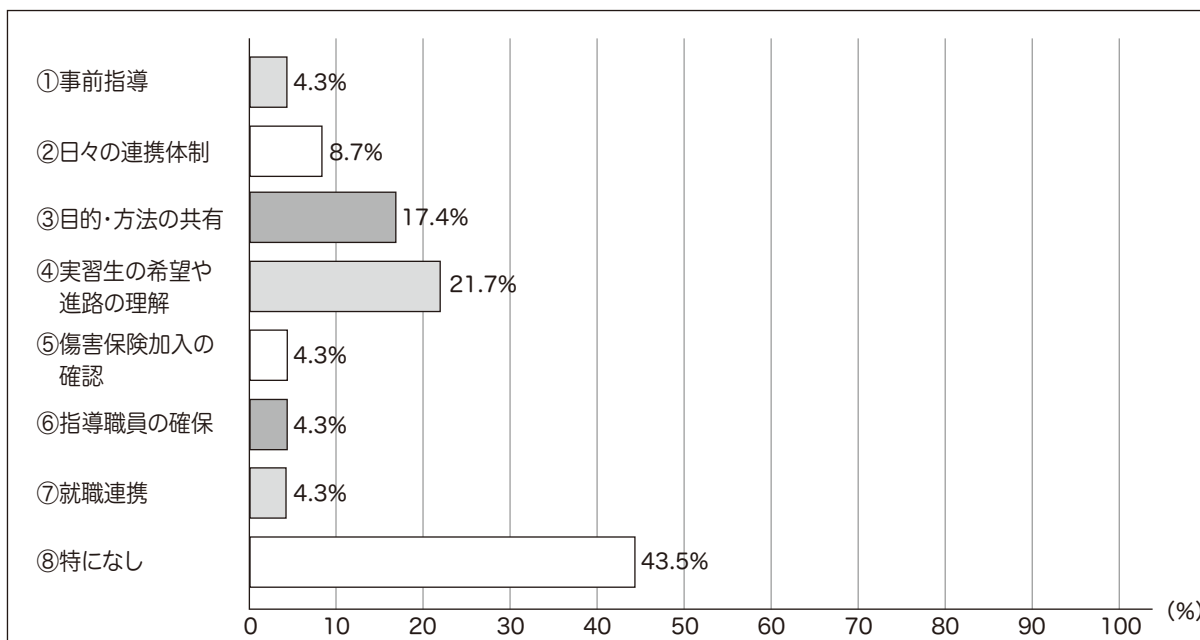
⑥その他

今までの経験を生かして工夫した。現場等の状況により、その時によって工夫することは変わる。

⑦特になし

4.学校と連携

ア 学校と連携する上で、ポイントとなる点はどんなことですか。(複数回答)



①事前指導

実習生に伝えたいことを実習前に直接に話すこと。

②日々の連携体制

学校担当者と企業担当者が毎日、連絡をとり、実習について共通理解しておくことが必要である。

③目的・方法の共有

企業側と学校側が実習の目的を共通理解し、目的に沿って対応すること。互いのノウハウや考え方を話し合っておくこと。

④実習生の希望や進路の理解

実習生がどのようなことを体験したいのか等について知っておくこと。実習生の仕事に対する考え方を事前に知っておくこと。

⑤傷害保険加入の確認

学校の傷害保険の加入を確認するとともに、緊急体制を確保しておくこと。

⑥指導職員の確保

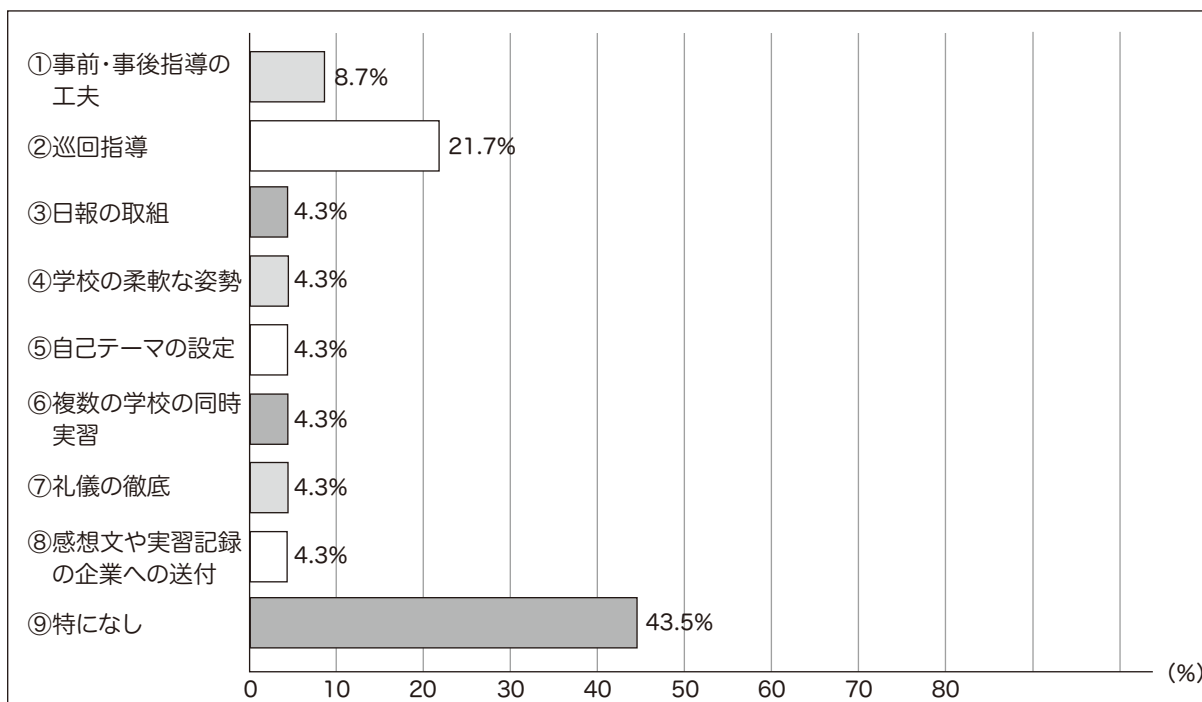
実習生の管理が空白となる時間が生じないよう、指導職員を配置すること。

⑦就職連携

実習が結果として就職に結びつくことが望ましい(4.3%)。

⑧特になし

イ 実習中に学校が取り組んだことで、良い取り組みだと感じられたのは、どんなことですか。



①事前・事後指導の工夫

実習の意義・趣旨説明等を事前に十分に学生に理解を図っておくこと。何を学んだかを検証させていること。

②巡回指導

実習中に実習生にこまめなフォローをしていたこと。教員も体験に加わり、実習生の実習に対する考え方を伝達願ったこと。教員が実習に付き添い、教員も直接に指導に加わっていたこと。

③日報の取組

毎日、レポートを作成し、企業側に提出していたこと。

④学校の柔軟な姿勢

実習は、社会経験としての教育との学校の方針で、企業も難しく考えずに受入できたこと。

⑤自己テーマの設定

学生一人一人にテーマを決めさせていたこと。

⑥複数の学校の同時実習

複数の学校が実習に参加していたため、競争意識があり、双方が真剣に取り組んでいた。

⑦礼儀の徹底

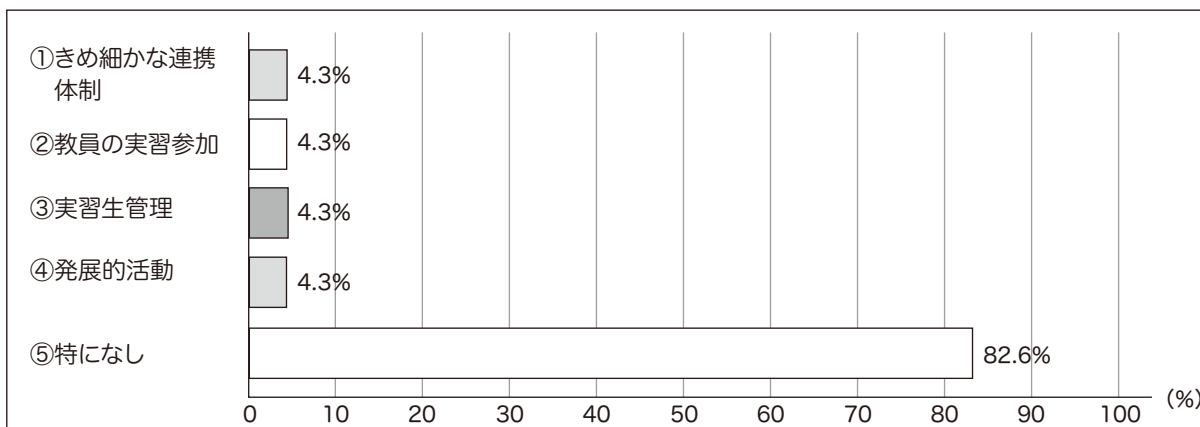
毎日、最後に整列して「ありがとうございました」という挨拶をしていたこと(感謝の気持ちを感じた)。

⑧感想文や実習記録の企業への送付

実習終了後、感想文や実習記録を届けてもらった。今後の参考となりよかった。

⑨特になし

ウ 実習中に、学校が取り組んだほうが良いと思われることがあればお書きください。



①きめ細かな連携体制

事前打ち合わせや実習中の企業訪問など、きめ細かな取組は、学校の意欲的な姿勢を感じる。

②教員の実習参加

教員も部分的に実習を体験するとよい。

③実習生管理

毎日、実習生に連絡し、問題点や健康状態などを確認すること。

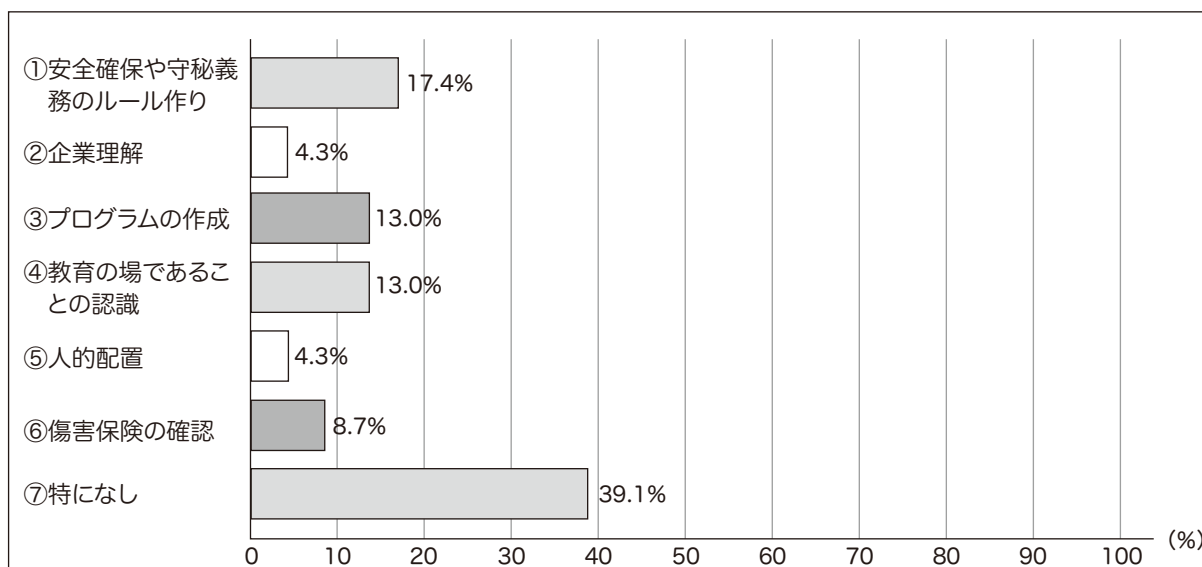
④発展的活動

実習期間中に興味を持ったことを実習後にさらに調べたり、専門の人に聞いたりすると、幅広い知識・知恵が会得できる。

⑤特になし

5.初めて企業内実習を受け入れる企業へのアドバイス

ア 初めて企業内実習を受け入れる企業が留意しなくてはならないことは、どんなことですか。



①安全確保や守秘義務のルール作り

実習生が危険物に触れない、または取り扱わせる場合のルールや方法を検討しておくこと。実習中、怪我をさせないよう、安全指導を徹底すること。

②企業理解

受入企業の得意としていることを学校に伝えておく。

③プログラムの作成

担当者の配置プログラムを作成しておくこと。実習生が興味を示すプログラムを作成しておくこと

④教育の場であることの認識

実習は、学生の育成に助勢することであることを認識しておくこと。実習の目的を明確にして取り組むこと。

⑤人的配置

専任の職員を期間中、配置すること。

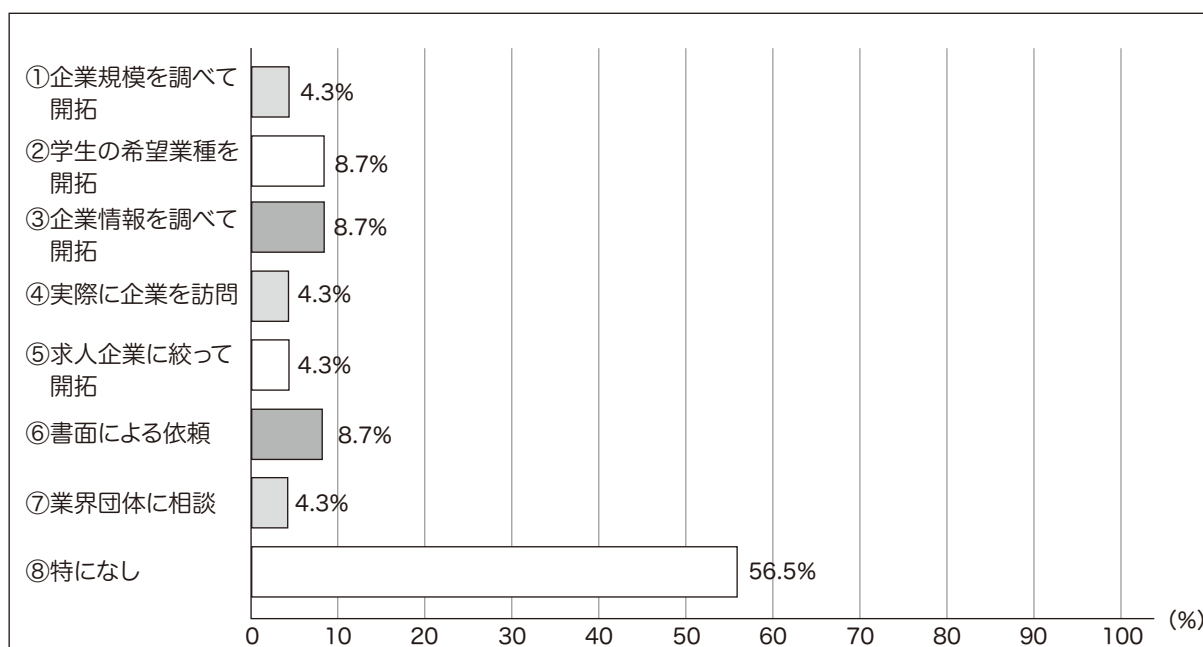
⑥傷害保険の確認

学校が実習中の傷害保険に加入しているか、緊急体制について共通理解されているかについて確認すること。

⑦特になし

6.初めて企業内実習に取り組む学校へのアドバイス

ア 初めて企業内実習を行う学校が、実習先企業を開拓するのに、どのような方法で行えばよいと思われますか。ポイントをお書きください。



①企業規模を調べて開拓

ある程度の規模の企業を開拓の対象とする。

②学生の希望業種を開拓

学生が希望する、また興味がある企業を選定し、働きかける。

③企業情報を調べて開拓

ホームページ等で企業情報を調査し、学生が希望するタイムリーな企業を開拓する。

④実際に企業を訪問

企業を訪問し、会社内容や仕事場の様子を確認する。

⑤求人企業に絞って開拓

求人のある会社に働きかける。

⑥書面による依頼

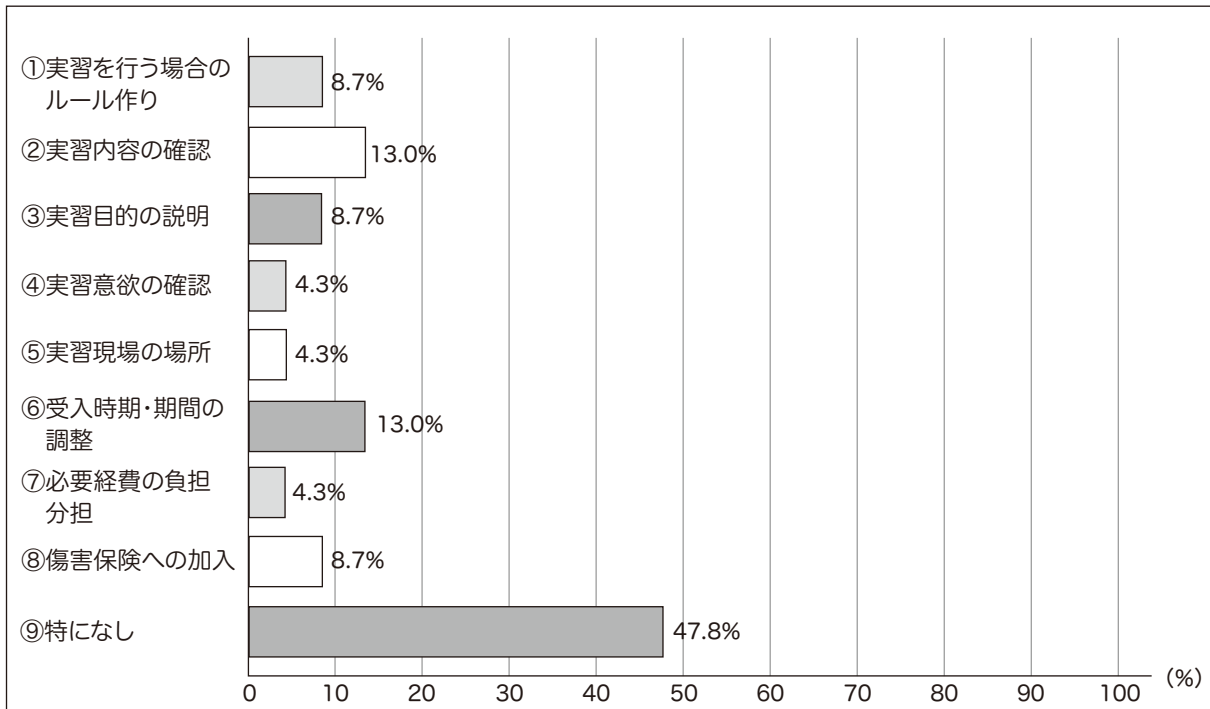
事前調整後、書面により実習の依頼を行うこと。

⑦業界団体に相談

業界団体にまずは交渉し、受入企業を斡旋してもらう。

⑧特になし

イ 初めて企業内実習を行う学校が、企業内実習を依頼するとき、留意しておかなければならないことはどんなことですか。(複数回答)



①実習を行う場合のルール作り

実習での禁止事項や連絡体制、安全指導、緊急体制などのルールを作っておくこと。

②実習内容の確認

どのような実習をさせてもらえるのか、プログラムを話し合っておくこと。学生の希望と合致した内容か確認すること。

③実習目的の説明

実習は、就職を前提としたものではないこと、アルバイトでもないことをよく説明しておくこと。企業に実習目的を明確に説明すること。

④実習意欲の確認

学生が建設業への関心があるかどうかを確認しておかなければ、企業にとっても実習生にとっても時間の無駄になる。

⑤実習現場の場所

現場へ学生が通勤できる距離にあるか、交通機関の状況かどうかを確認しておくこと。

⑥受入時期・期間の調整

受入時期・期間を企業とよく話し合い、調整しておくこと。

⑦必要経費の負担分担

交通費や昼食の手配等の負担方法を決めておくこと。

⑧傷害保険への加入

実習中の災害に対する傷害保険に加入していることを伝えておくこと。

⑨特になし

IV その他

1. 企業内実習以外に、専門学校と連携した取組があれば、どのような取組をされているか、お書きください。

- ① 定期的な現場見学会
- ② 研修会

2. また、今後、企業内実習以外に、専門学校と連携して取り組んでみたいことがあれば、お書きください。

- ① 年齢、階層等の幅広い意見交換会
- ② ドローン実演
- ③ 出前授業

3. さらに、充実した企業内実習にするために、お気づきのことがあれば、ご指摘ください。

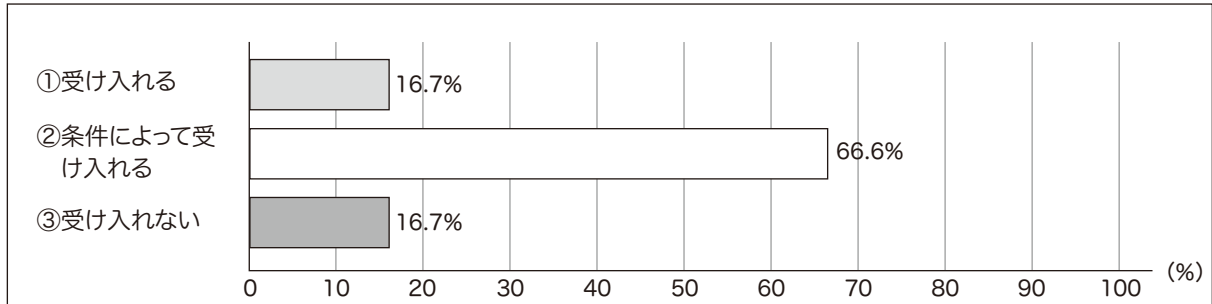
- ① 企業内実習の受け入れマニュアルを作成しておけば、毎年、受け入れることができ、社会貢献できると思う。
- ② 企業内実習は座学では学べない貴重な体験であることを事前指導しておくにより有効なものとなると思う。
- ③ 職種や内容に応じて細分化した進め方を検討する。
- ④ 全国技能士連合会や兵庫県技能士連合会と連携してみたらどうか。

デュアル教育・企業アンケート調査集計表(設計)

回答企業:12社

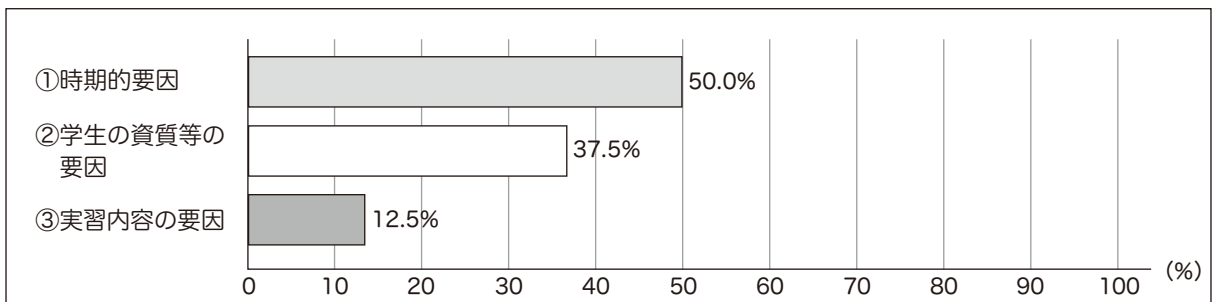
I 企業内実習の受入について

1.学校から企業内実習の依頼があったとき、貴企業では、受け入れていただけますか。



2.「1」で「②条件によって受け入れる」と回答した企業にお尋ねします。

どんな条件であれば、受け入れていただけるか、お書きください。(複数回答)



①時期的要因

業務の状況、繁忙期であれば受け入れられない。

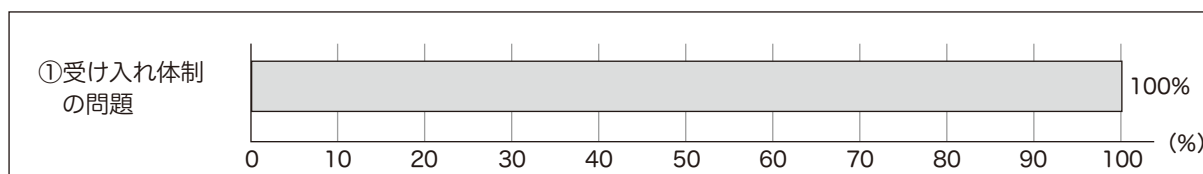
②学生の資質等の要因

健康で真面目で建築が好きな学生を受け入れる。本人の希望が企業の職種と一致している場合は、受け入れる。J W - C A D を使えることが条件となる。

③実習内容の要因

C A D が他社にない特殊なため、覚えるだけで時間を要するので、他の管理業務・打合せ等の設計事務所を知る実習なら協力できる。

3.「1」で「③受け入れない」と回答した企業にお尋ねします。その理由をお書きください。

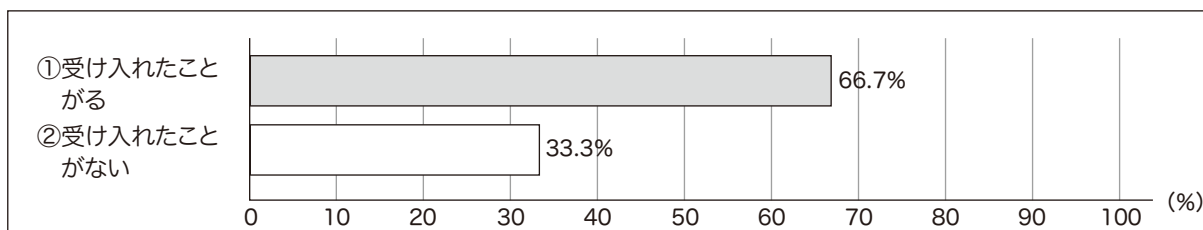


①受入体制の問題

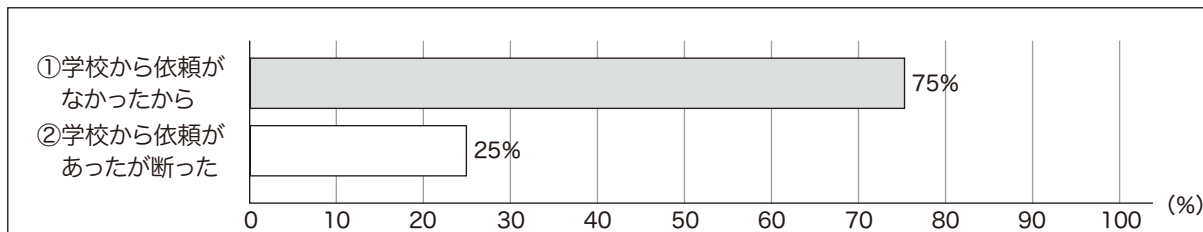
指導するスタッフがおらず、受け入れ態勢が整っていないため。

II 企業内実習受入実績について

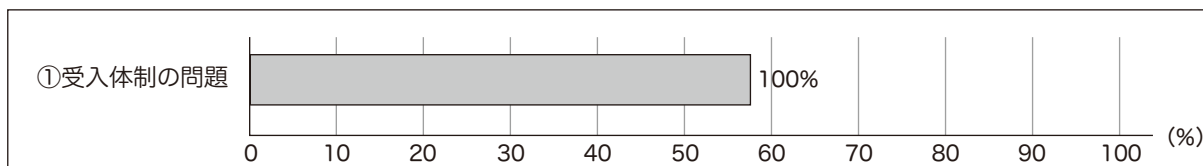
1.これまで企業内実習を受け入れたことがありますか。



2.「1」で「②受け入れたことがない」と回答した企業にお尋ねします。それは、なぜですか。



3 「2」で「②学校からの依頼はあったが断った」と回答した企業にお尋ねします。その理由をお書きください。



①受入体制の問題

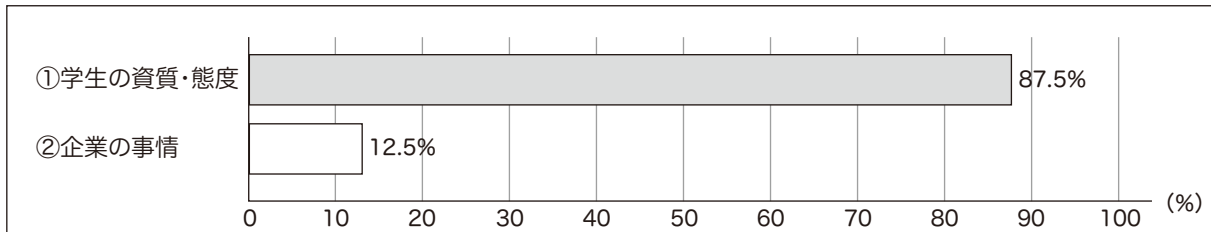
対応するスタッフがいなかったため。

Ⅲ 企業内実習受入企業の創意工夫について

「Ⅱ」の「1」で「①受け入れたことがある」と回答した企業にお尋ねします。

1. 企業内実習受入の基本的な考え方

ア 貴企業が企業内実習を受け入れるかどうかを判断する基準のようなものを設けていますか。設けている場合はその基準の概要をお書きください。



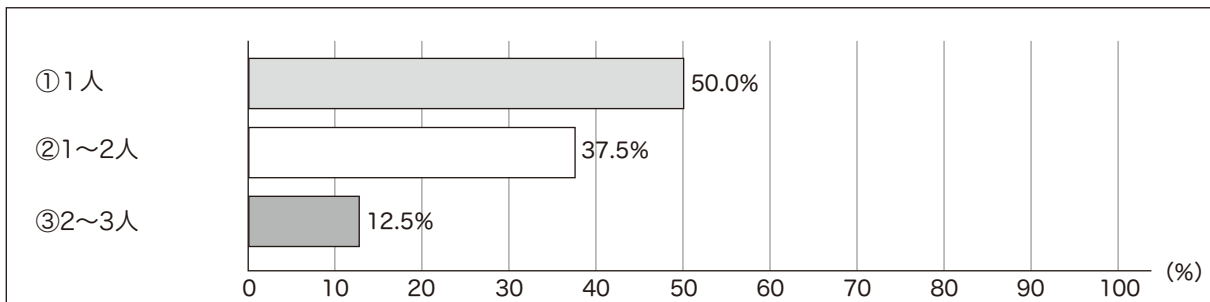
①学生の資質・態度

やる気のある学生であること。ある程度の社会性(マナー)を身に着けていること。

②企業の事情

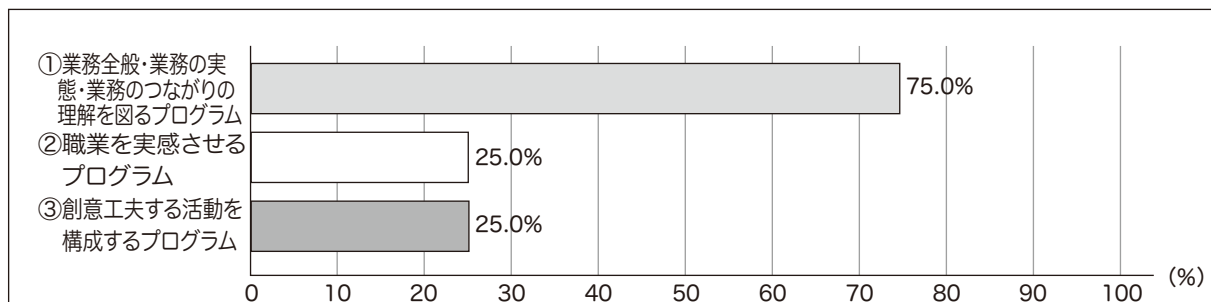
実習用の予備のCADの有無による。

イ 企業内実習受入人数は、一度に何人ぐらいが適切と考えていますか。



2. 企業内実習の活動プログラムの工夫

ア 企業内実習を実施する際、どのような考え方で活動プログラムを作っていますか。(複数回答)



①業務全般・業務の実態・業務のつながりの理解を図るプログラム

様々な種類の実務体験を行うよう、計画している。設計、CAD、現場見学を織り込むように計画している。画面の作成手順、作成要領、現場管理の全般の業務状況の理解を図るよう、計画している。図面・模型・現場とのつながりの理解を深めるよう、計画している。

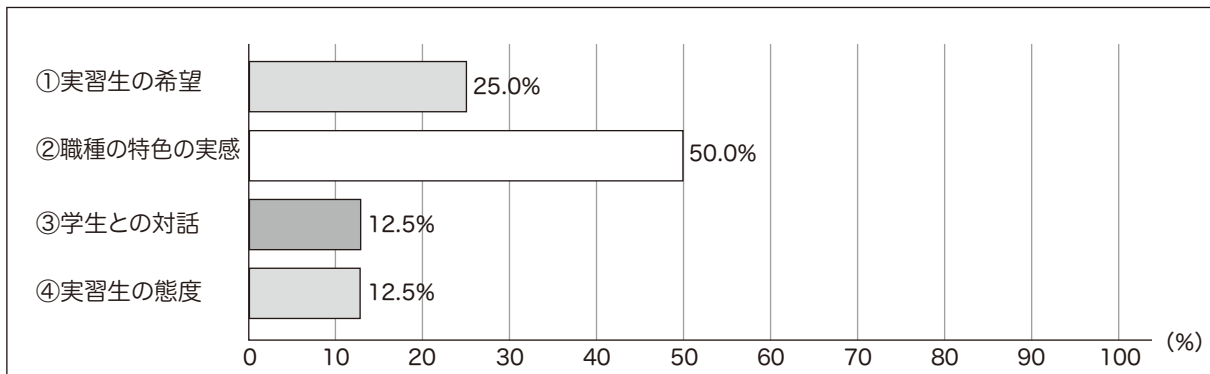
②職業を実感させるプログラム

建てるプロセスを見て実感する活動を構成する。設計を行う上での多角的な検討の難しさがわかる活動を構成する。

③創意工夫する活動を構成するプログラム

学生の能力にあわせて、2、3日は職場に慣れる活動を行い、その後、新しい仕事にチャレンジする活動を工夫している。ある敷地を想定し、家族構成等の課題を与え、その敷地内に建てる住宅の平面図、立面図を学生が考え、C A Dで図面作成し、模型を製作するカリキュラムを実施している。

イ その際、最も重視されることは、どんなことですか。(複数回答)



①実習生の希望

実習生が希望する活動を取り入れる。学校・学生が実習に求めているものを把握し、カリキュラム構成する。

②職種の特色の実感

進行中の現場を見学し、設計図の線の大切さを学ぶこと。意匠視点の設計のみならず、構造・設備担当との設計打ち合わせを実際に行うことで、自分の考えた案を作品として終わらせず、建てる可能性を感じさせる。設計業務の流れを勉強してもらうことを主眼としている。手で描くこと、手で作ることを重視する。

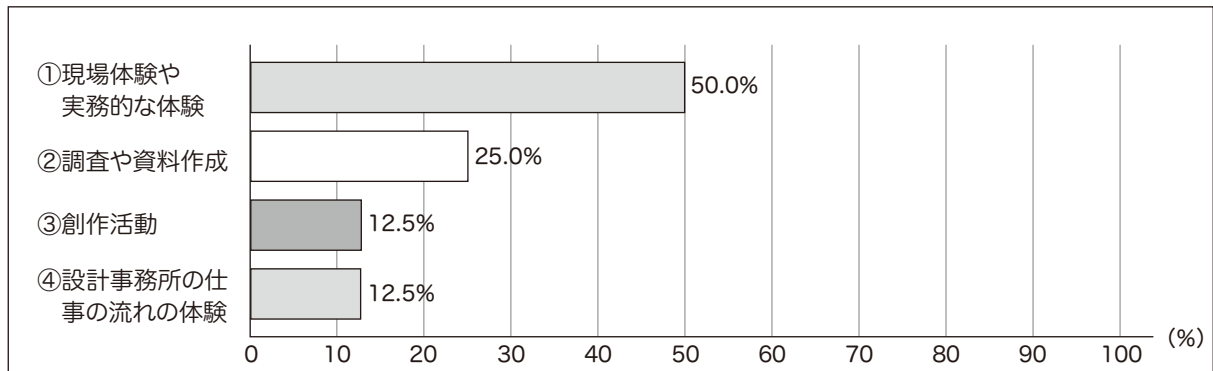
③学生との対話

学生とのコミュニケーションを大切にしている。

④実習生の態度

本人の努力しようとする姿を重視する。

ウ これまで、効果的であると感じられたのは、どのようなプログラムですか。また、そのプログラムによって、どのようなことを学んだと思われますか。



①現場体験や実務的な体験

現場体験プログラム→そのことにより、現場の雰囲気を感じることができる。

作図や現場管理などの実務的な業務体験プログラム→そのことにより、職場の実際を知る。

進行中の建設現場や建築物の見学するプログラム→そのことにより、図面と現場の照合できる。

②調査や資料作成

設計する前にヒューマンスケール資料としてまとめ、インターンシップ後も使えるし資料として作成するプログラム→そのことにより、ヒューマンスケールを学ぶことができる。(例:階段勾配 緩い・急、開口部幅 狭い・広い)

既存建物調査プログラム→既存建物調査記録をまとめ報告書を作成するなど、既存建物調査をする作法が身につく。

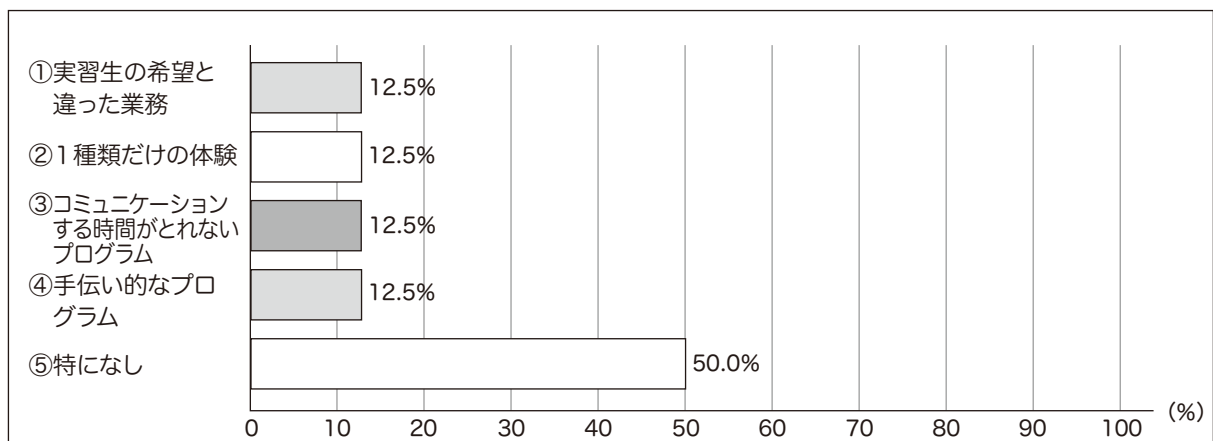
③創作活動

手近にあるもので工夫して、表現したい形を立体で作るプログラム→そのことにより、「表現」したいという意欲がなければ、創造の時間が単なる作業になってしまうことや、「表現」をした人の意欲を真剣に受け止めることの大切さを学ぶ。

④設計事務所の仕事の流れの体験

設計業務の流れを体験するプログラム→自分が考えた家の模型製作により、現実的な実務を学ぶことができ、設計への興味がより深くなる。

エ 「よくなかった」「実施しないほうがよい」と思われたのは、どのようなプログラムがありましたか。



① 実習生の希望と違った業務

実習生の希望しない業務を行うこと(設計事務所を嫌いになるため)。

② 1種類だけの体験

模型作りなど、一種類だけの体験を行わせること。

③ コミュニケーションする時間がとれないプログラム

ほとんどが一人での作業となるような業務は、社員と実習生とのコミュニケーションする時間や場がづくりにくいのでよくない。

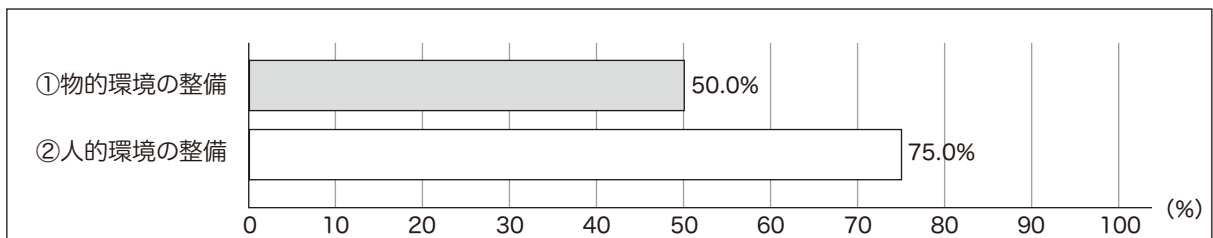
④ 手伝い的なプログラム

実務の手伝いだけをさせることは避けたほうが良い。

⑤ 特になし

3. 受入体制の工夫

ア 受入れにあたって、企業内ではどのような体制が必要ですか。(複数回答)



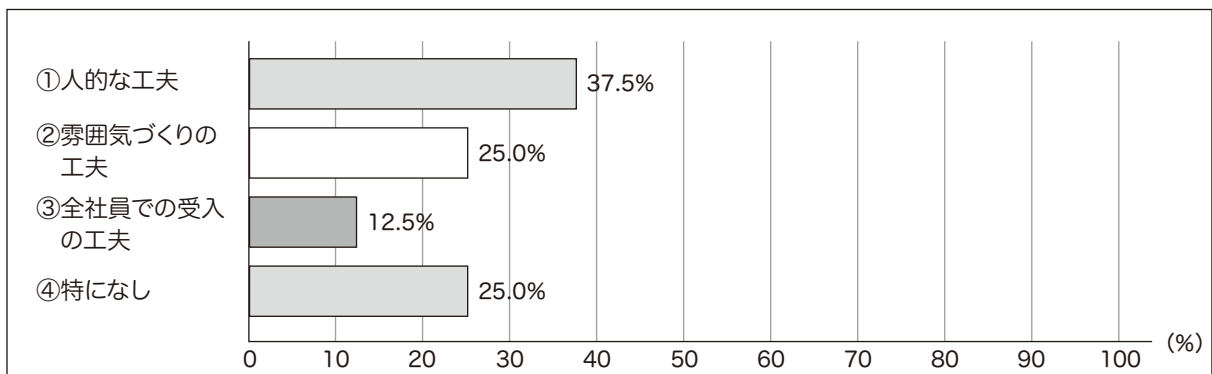
① 物的環境の整備

実習生用のデスクを設置すること。実習生用のパソコンを用意すること。

② 人的環境の整備

実習生が気軽に話し、質問できる若い人材の配置すること。必要な指導を簡単明瞭に指導できる人材の配置すること。担当を決め、日程と人数の管理を徹底することが必要であること。継続的に作業をアドバイスするスタッフが一人必要である。一部の担当者によるプログラムは学ぶものが少ない、社員全員で受け入れる体制が必要である。指導する社員にある程度の時間的余裕をつくっておくこと。人的な対応計画の作成しておくこと。

イ 受入体制で、工夫されたことはどんなことですか。(複数回答)



①人的な工夫

学生と近い年齢の社員を指導者としたこと。どのような学生が来るかを把握した上で受入の割り振りした。

②雰囲気づくりの工夫

コミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりを工夫した。実習生が興味をもって作業に集中できるように環境を工夫した。

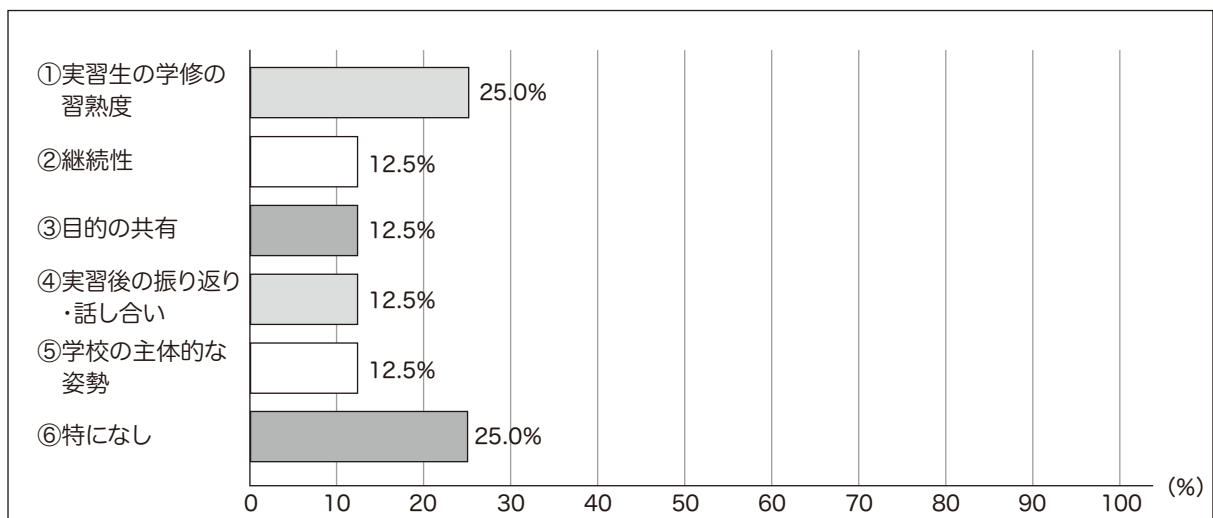
③全社員での受入の工夫

全社員で意見を出し合いカリキュラム作成した。

④特になし

4.学校と連携

ア 学校と連携する上で、ポイントとなる点はどんなことですか。



①実習生の学修の習熟度

連携するには、学生の習熟のタイミングがポイントとなり、ある程度、建築の知識を学んだ段階でインターンシップを行うこと。入学して数か月では現場実習を行うのは早い。

②継続性

1年だけでなく、継続的に学校と連携していくことがポイントとなる。

③目的の共有

学校側が何を学ばせたいか、実習生は何を学びたいかを明確に伝えること。

④実習後の振り返り・話し合い

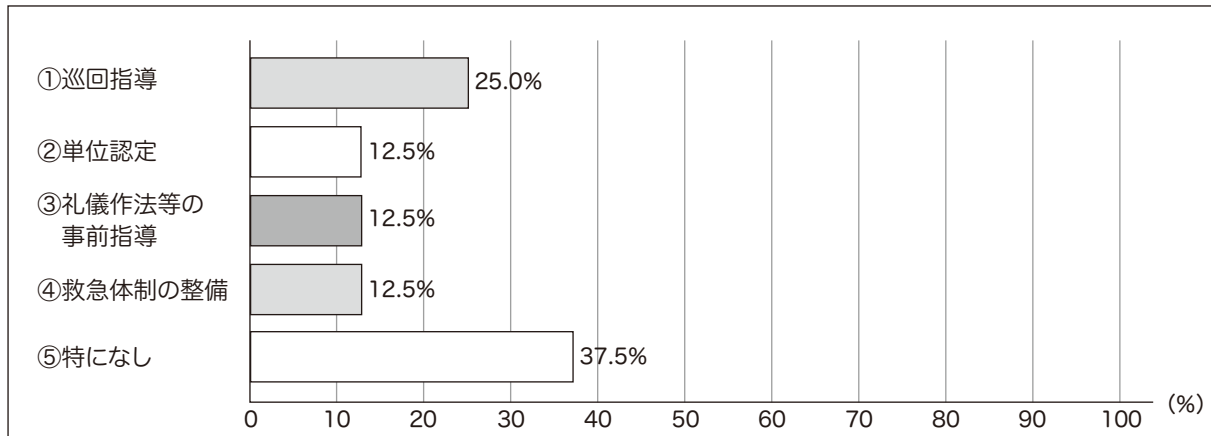
実習後に感想を互いに話し合うことが、今後の連携に役立つ。

⑤学校の主体的な姿勢

企業任せにして、負担をかけないようにすること。

⑥特になし

イ 実習中に学校が取り組んだことで、良い取り組みだと感じられたのは、どんなことですか。(複数回答)



①巡回指導

実習中に企業訪問し、学生の様子を見たり、感想を聞いたりすること。

②単位認定

実習を単位として認定するシステムを設けていること。

③礼儀作法等の事前指導

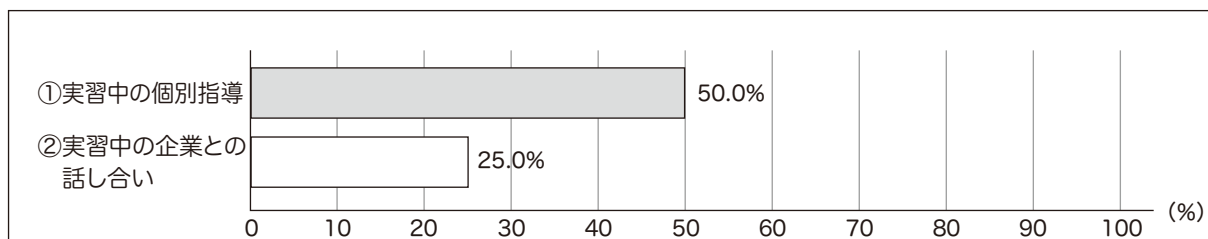
社会人としての礼儀や言葉遣いを事前指導で徹底していること。

④救急体制の整備

怪我をした学生に迅速に対応する体制を整備していること。

⑤特になし

ウ 実習中に、学校が取り組んだほうが良いと思われることがあればお書きください。



①実習中の個別指導

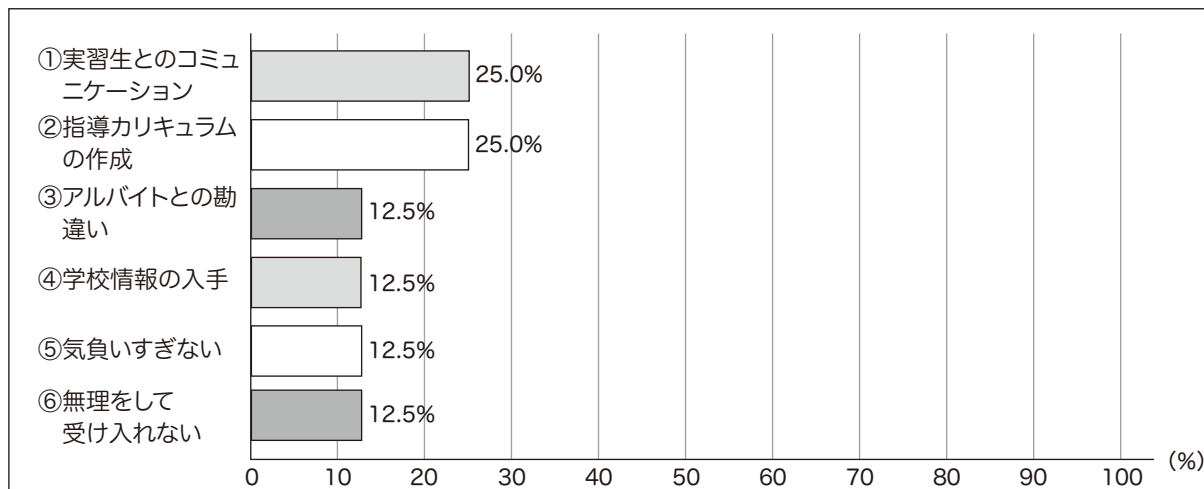
実習中の学生個々の実習状況や指導状況を把握しておくこと。学校での実務的な指導が実習でどのように活かされているかを把握しておくこと。

②実習中の企業との話し合い

実習中に企業を訪問しコミュニケーションをとること。

5 初めて企業内実習を受け入れる企業へのアドバイス

ア 初めて企業内実習を受け入れる企業が留意しなくてはならないことは、どんなことですか。



①実習生とのコミュニケーション

実習生とのコミュニケーションを大切にすること。頻繁に学生に声をかけること。

②指導カリキュラムの作成

事前に指導カリキュラムを作成しておくこと。手伝いや補助に終わらせないこと。

③アルバイトとの勘違い

実習は教育であり、アルバイトではないということを認識すること。

④学校情報の入手

学校の校風や教育方針を事前に知っておくと学生への対応がしやすくなる。

⑤気負いすぎない

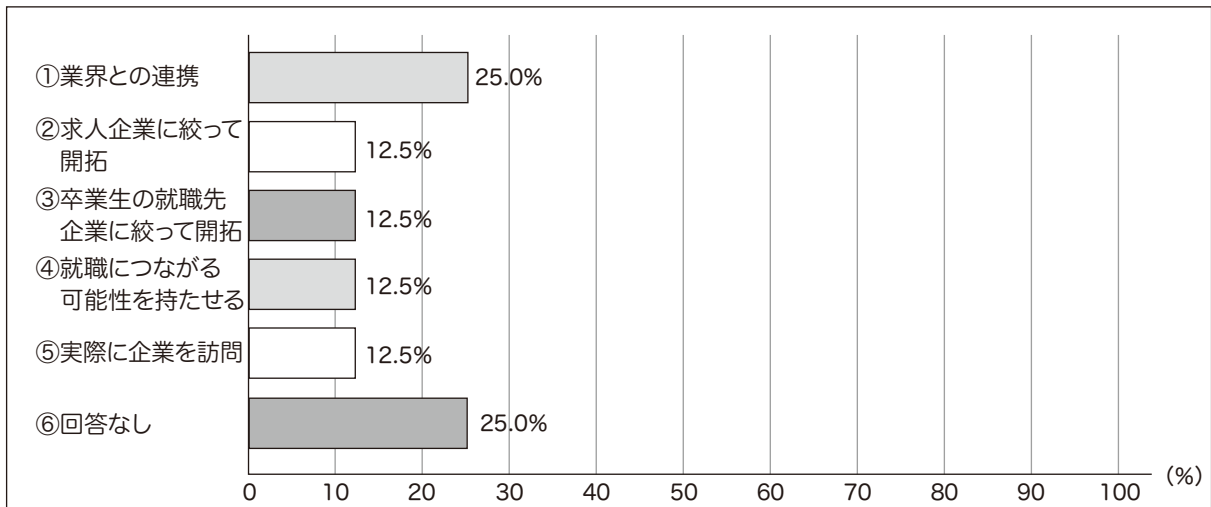
設計事務所としては、雰囲気を感じとってもらう程度と考えた方がよい。

⑥無理をして受け入れない

指導人員がなく、指導時間が取れないのに無理して受け入れて、読書や雑用だけで終わらせないようにすること(受入を断ること)。

6 初めて企業内実習に取り組む学校へのアドバイス

ア 初めて企業内実習を行う学校が、実習先企業を開拓するのに、どのような方法で行えばよいと思われますか。ポイントをお書きください。



①業界との連携

建築士事務所協会や設計監理協会に協力を求め、実習先を探す。

②求人企業に絞って開拓

求人を出している企業は、人材確保の観点から実習を受け入れる可能性が高いと考えられる。

③卒業生の就職先企業に絞って開拓

卒業生のいる企業は、既に一定の関係ができていますので、その企業にアプローチすると実習を受け入れる可能性が高いと考えられる。

④就職につながる可能性を持たせる

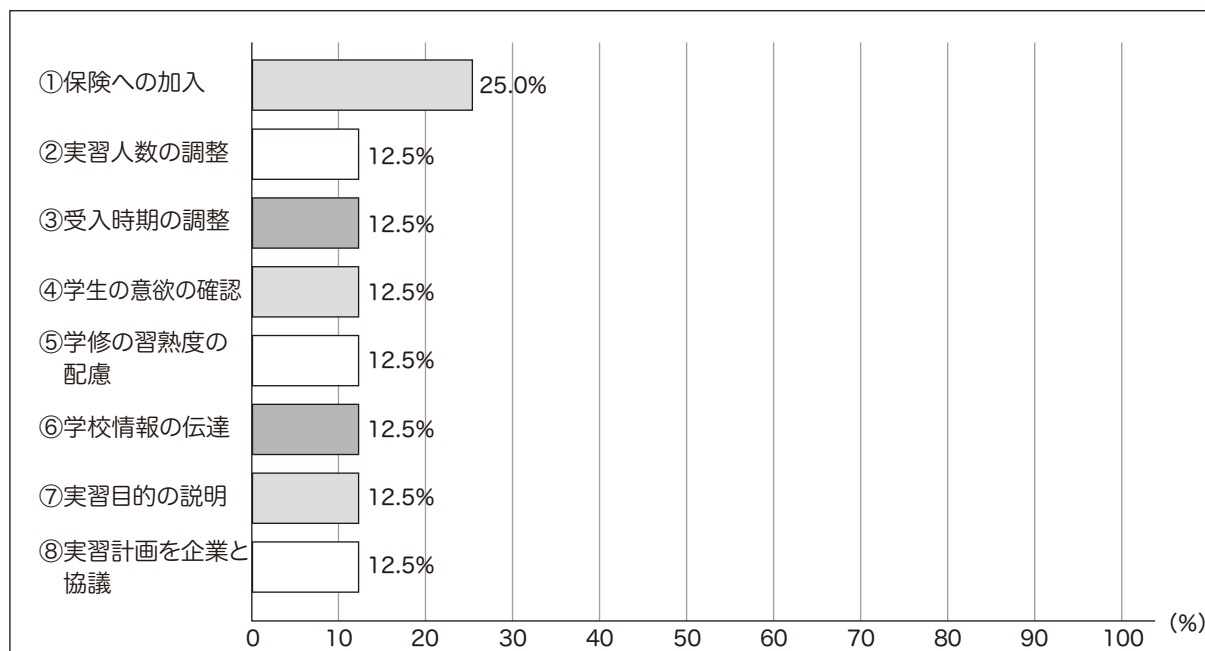
学生が実習を通じて企業について知り、就職につながるような可能性を持たせれば、受入企業は増える。

⑤実際に企業を訪問

企業に足を運び依頼するとともに、雰囲気を確認し、よい受入企業を開拓すること。

⑥回答なし

イ 初めて企業内実習を行う学校が、企業内実習を依頼するとき、留意しておかなければならないことはどんなことですか。(複数回答)



①保険への加入

傷害保険等に参加し、実習期間内の保障体制を整えること。

②実習人数の調整

企業規模を踏まえて実習参加人数を考えること。

③受入時期の調整

受入時期を企業が選べるように、複数提示すること。

④学生の意欲の確認

設計の仕事に携わる意志と実習への意欲を持った学生を選定すること。

⑤学修の習熟度の配慮

ある程度、学修が進んだ学生を参加させること。

⑥学校情報の伝達

学校の校風や教育方針、学生の実態や就職先等の学校情報を伝えること。

⑦実習目的の説明

学校側が学生に何を学ばせたいか、学生が何を学びたいかを明確に伝え、それに適した企業を選ぶこと。

⑧実習計画を企業と協議

学校の計画を企業に一方的な依頼するのではなく、企業と協議しながら、目的は達成するが、企業に負担をかけない計画を立てること。

IV その他

1. 企業内実習以外に、専門学校と連携した取組があれば、どのような取組をされているか、お書きください。

①建築のワークショップを通じた学生との交流

2. また、今後、企業内実習以外に、専門学校と連携して取り組んでみたいことがあれば、お書きください。

①建築のワークショップ、調査、まちづくり

②意見交換会

③設計事務所の出前授業

3. さらに、充実した企業内実習にするために、お気づきのことがあれば、ご指摘ください。

①ものづくりの楽しさを学ぶ機会を多く作る。

②実習は新人教育に近い取り組みが必要であり、「学校の授業カリキュラムにあるから、自宅に近い設計事務所を企業内実習先を選んだけど、就職するつもりは全くない」という学生が来られと企業内実習対応の負担だけになってしまう。「将来、入社してくれるかもしれない」という期待をもち、この負担を行う。実習生には、「この企業に就職するんだ」という覚悟を持って来てもらいたい。学校でも、そのような指導をしてもらいたい。

③企業から何を学べるかの方向性を学生が持った上で参加すると、よりリアルな実務体験になる。

企業内実習は学生の若さが事務所スタッフを元気づける役割もある。

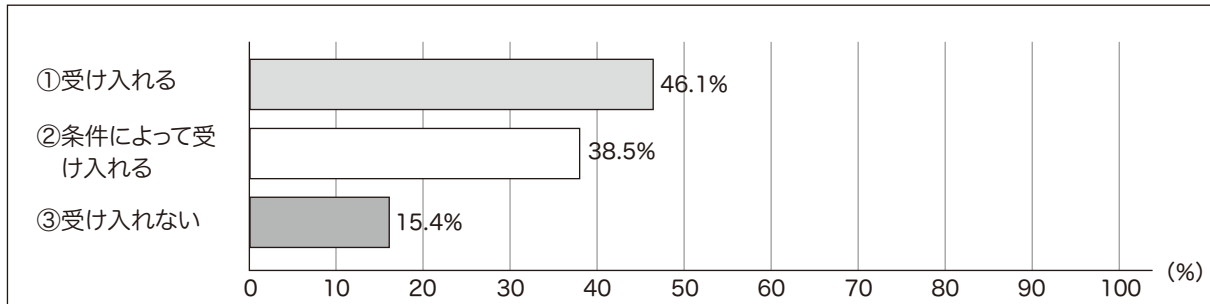
④授業の一環として実施することもよいのではないか。

デュアル教育・企業アンケート調査集計表(大工・左官)

回答企業:13社

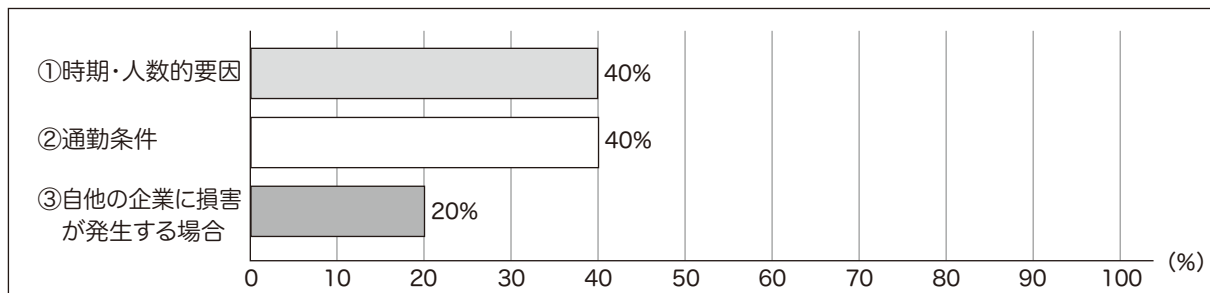
I 企業内実習の受入について

1.学校から企業内実習の依頼があったとき、貴企業では、受け入れていただけますか。



2.「1」で「②条件によって受け入れる」と回答した企業にお尋ねします。

どんな条件であれば、受け入れていただけるか、お書きください。



①時期・人数的要因

繁忙期であれば受け入れられない。人数が受入範囲内であれば受け入れる。

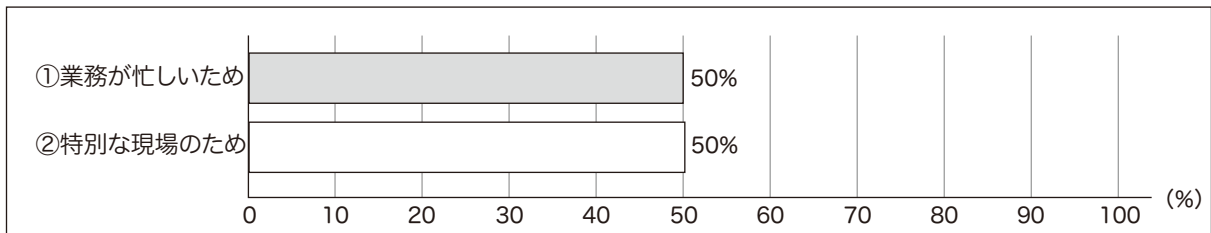
②通勤条件

現場に直行できる学生であれば受け入れる。

③自他の企業に損害が発生する場合

受入可能にするよう、業界団体の企業には周知徹底しているが、公平性に欠ける依頼や進め方等が見受けられる場合は、会員企業に損害が発生する可能性があるため、事案ごとに検討している。

3.「1」で「③受け入れない」と回答した企業にお尋ねします。その理由をお書きください。



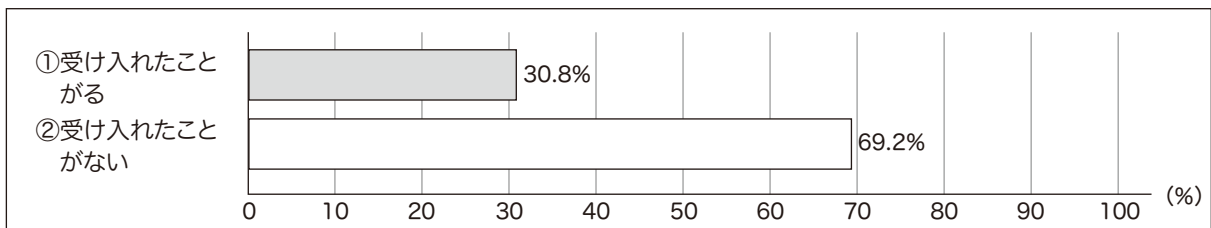
①業務が忙しいため。

②特別な現場であるため。

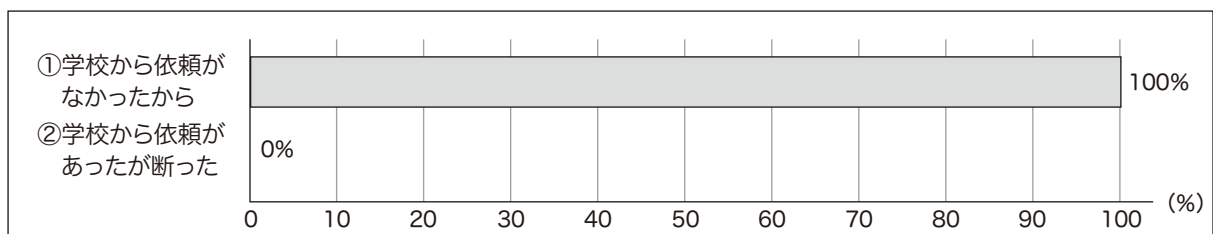
受注現場がコンプライアンス内に部外者が立ち入ることが難しいため。

II 企業内実習受入実績について

1.これまで企業内実習を受け入れたことがありますか。



2.「1」で「②受け入れたことがない」と回答した企業にお尋ねします。それは、なぜですか。



3 「2」で「②学校からの依頼はあったが断った」と回答した企業にお尋ねします。

その理由をお書きください。

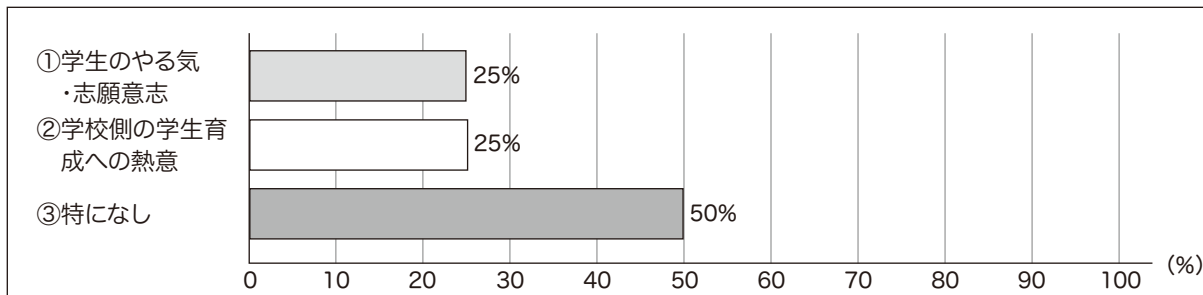
該当なし

III 企業内実習受入企業の創意工夫について

「II」の「1」で「①受け入れたことがある」と回答した企業にお尋ねします。

1. 企業内実習受入の基本的な考え方

ア 貴企業が企業内実習を受け入れるかどうかを判断する基準のようなものを設けていますか。設けている場合はその基準の概要をお書きください。(複数回答)



①学生のやる気・志願意志

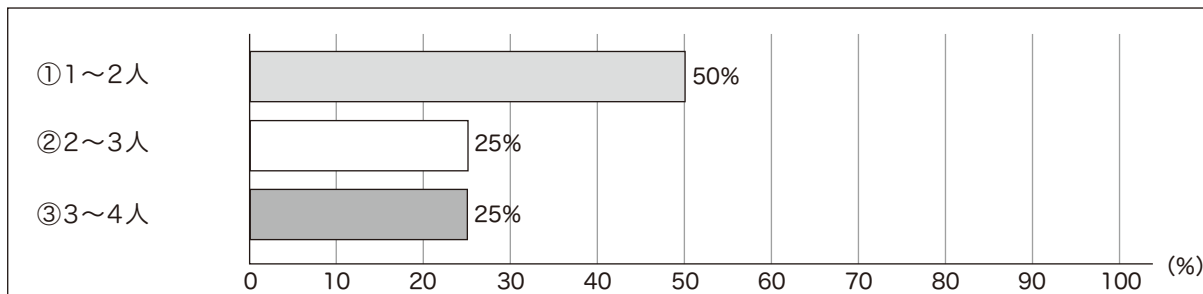
目指す仕事への学生本人の本気度が低いと、入職後に短期間で退職というパターンが多く見受けられるため、志願している意思を確認する必要がある。

②学校側の学生育成への熱意

学校の熱意がないと、充実した実習とならず、企業に預けっぱなしという状態の実習になる。

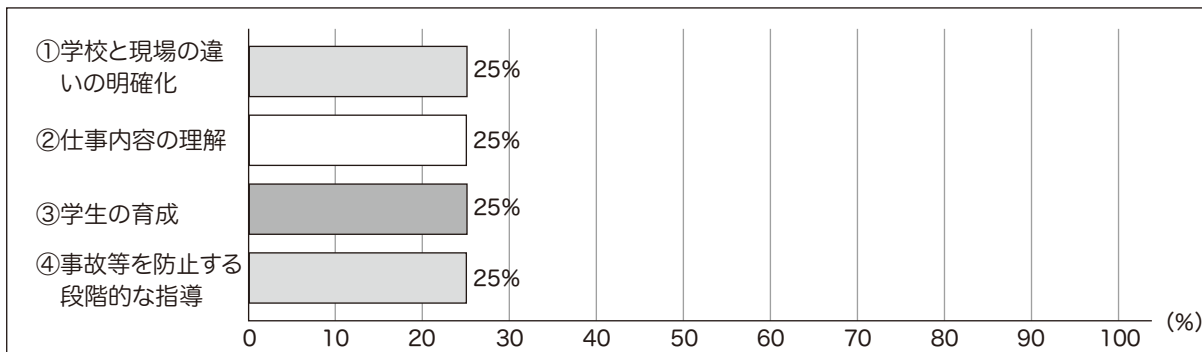
③特になし

イ 企業内実習受入人数は、一度に何人ぐらいが適切と考えていますか。



2. 企業内実習の活動プログラムの工夫

ア 企業内実習を実施する際、どのような考え方で活動プログラムを作っていますか。(複数回答)



①学校と現場の違いの明確化

学校での実習と実際の現場での仕事の違いを明確にすること。

②仕事内容の理解

仕事の内容や職場の雰囲気の理解を深めること。

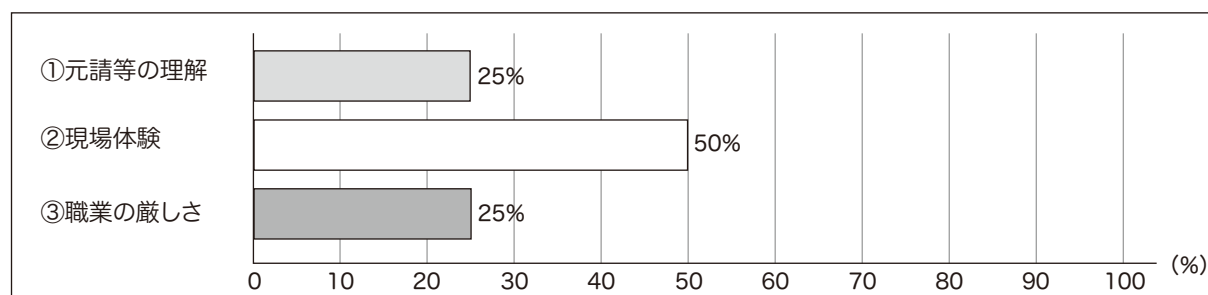
③学生の育成

学生が毎日一つでも身に付けて帰れるようにすること。

④事故等を防止する段階的な指導

最初から現場配属しても事故等の問題が発生するため、第一工程は、DVD等を用いた「左官とは」の指導、第二工程は、「現場見学」と「専門職運営の塗壁授業」、最終工程で「現場作業経験」とし、総括部分で現場でのルール、法規、必要な免許等の説明と順次進めていく。

イ その際、最も重視されることは、どんなことですか。(複数回答)



①元請等の理解

元請や他の業者に迷惑にかからないようにすること。

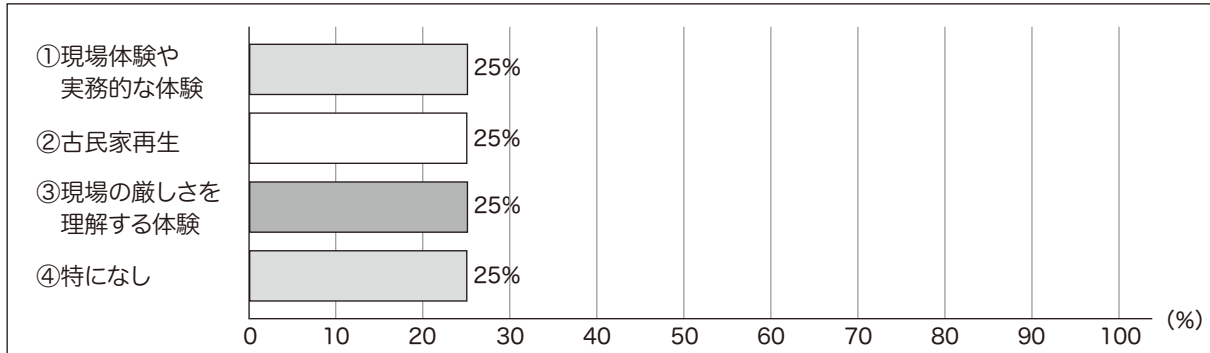
②現場体験

実際の現場作業の内容を体験させること。

③職業の厳しさ

学生のやる気を見抜き、お金を稼ぐためにはどうあるべきかという部分の厳しさを体験させること。

ウ これまで、効果的であると感じられたのは、どのようなプログラムですか。また、そのプログラムによって、どのようなことを学んだと思われますか。



①現場体験や実務的な体験

現場体験プログラム→現場で職人たちとコミュニケーションをとり、緊張感のある中で作業を進め、達成感を感じることは非常に効果的であり、仕事をする上での大変さと喜びを感じさせることができる。

②古民家再生

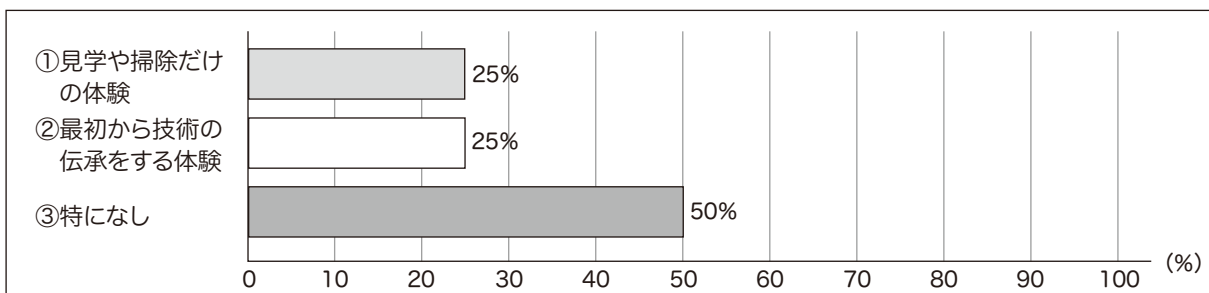
古民家を休憩所にするため、長椅子製作や丸太足場組、洗い、古色塗り等の一連作業→昔の建物の木組・構造のすばらしさや手道具・技術を磨く大切さを感じさせることができる。

③現場の厳しさを理解する体験

野丁場での時間的ルール、現場に入場している他業種との関係等の現場作業の厳しさともものづくりの素晴らしさを理解する体験→社会人には社会のルールや協調性が必要なこと、また学校とお金を稼ぐ現場との違いを学ぶことができる。

④特になし

エ 「よくなかった」「実施しないほうがよい」と思われたのは、どのようなプログラムがありましたか。



①見学や掃除だけの体験

掃除も大事な仕事であるが、実習ではその意味を伝えることができず、理解できないため。

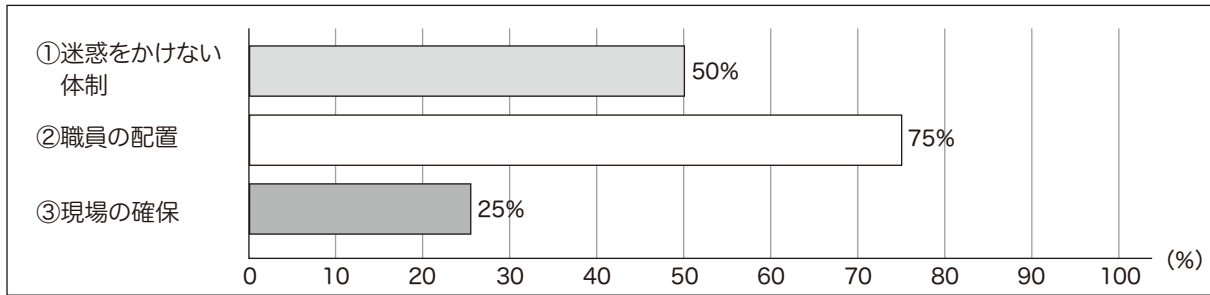
②最初から技術の伝承をする体験

最初から技術の伝承を始めても技術が伴ってないので、目で見て、耳で聞くことから始めることが大切である。

③特になし

3.受入体制の工夫

ア 受入れにあたって、企業内ではどのような体制が必要ですか。(複数回答)



①迷惑をかけない体制

取引先や他の業者に実習を受け入れることを理解してもらい、迷惑のかからない体制を確立しておくこと。

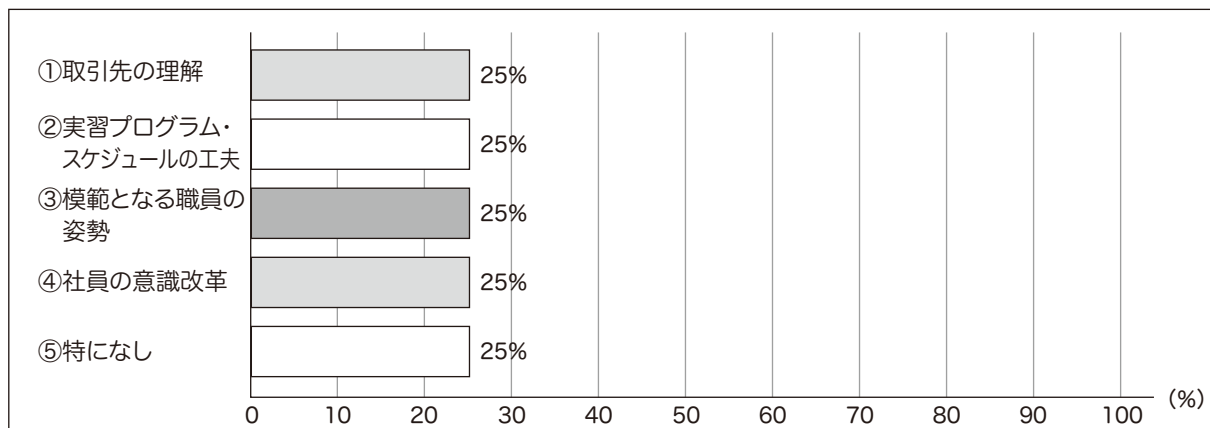
②職員の配置

会社内に教育係を設けるなど、指導体制を確立する。教育係を育成する。

③現場の確保

実習ができる現場を確保すること。

イ 受入体制で、工夫されたことはどんなことですか。(複数回答)



①取引先の理解

取引先にあらかじめ実習を受け入れることを理解してもらい、工程や作業に配慮してもらう。

②実習プログラム・スケジュールの工夫

実習生が遊んでしまわないように、業務スケジュールを立てる。

③模範となる職員の姿勢

挨拶、礼儀、清掃等、実習生の模範となるよう、受け入れ体制を整える。

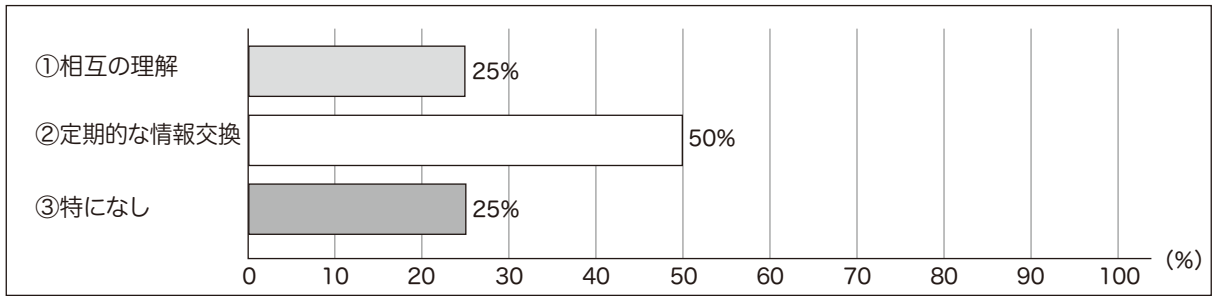
④社員の意識改革

自社の就職に繋がらなくても他社で入職すればよいとの考え方で受け入れるよう、担当者、社員の意識改革を行う。

⑤特になし

4.学校と連携

ア 学校と連携する上で、ポイントとなる点はどんなことですか。



①相互の理解

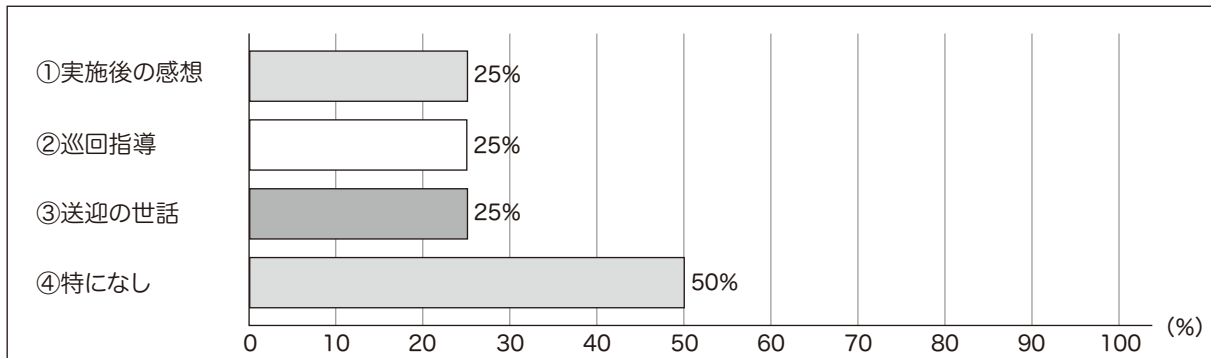
実習に対する学生の考え方、企業側の学生への接し方、考え方をお互いにあらかじめ理解しておくこと。

②定期的な情報交換

学校は学生の就職先での勤務状況等について企業と定期的な情報交換する。実習の段取りについて、連絡・情報交換を行うこと。

③特になし

イ 実習中に学校が取り組んだことで、良い取り組みだと感じられたのは、どんなことですか。(複数指導)



①実施後の感想

実習終了後、学生が感じたことを企業側に細かく伝えてくれたこと。

②巡回指導

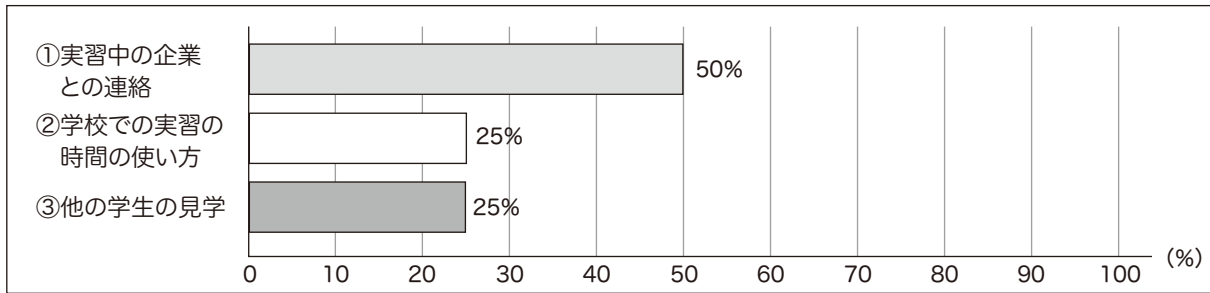
学校の教員が引率したり、巡回指導したりすること。

③送迎の世話

交通機関がない場合に学生を送迎すること。

④特になし

ウ 実習中に、学校が取り組んだほうが良いと思われることがあればお書きください。



①実習中の企業との連絡

実習中に企業にもっとしてほしいことを連絡したり、アドバイスをしたりすること。学校と企業と連絡を密にすること。

②学校での実習の時間の使い方

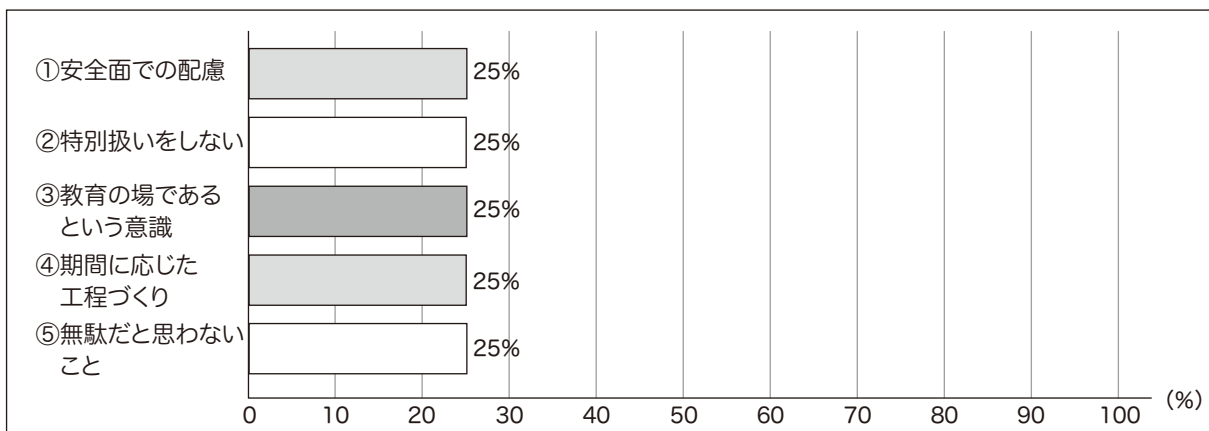
学校での実習時に休憩と作業の切り替えなど、時間の使い方を厳しく指導すること。

③他の学生の見学

他の学生が友達の企業内実習に共感できるよう、見学する機会を設ける。

5.初めて企業内実習を受け入れる企業へのアドバイス

ア 初めて企業内実習を受け入れる企業が留意しなくてはならないことは、どんなことですか。(複数回答)



①安全面での配慮

②特別扱いをしない

できる限り社員と同様の対応をする。

③教育の場であるという意識

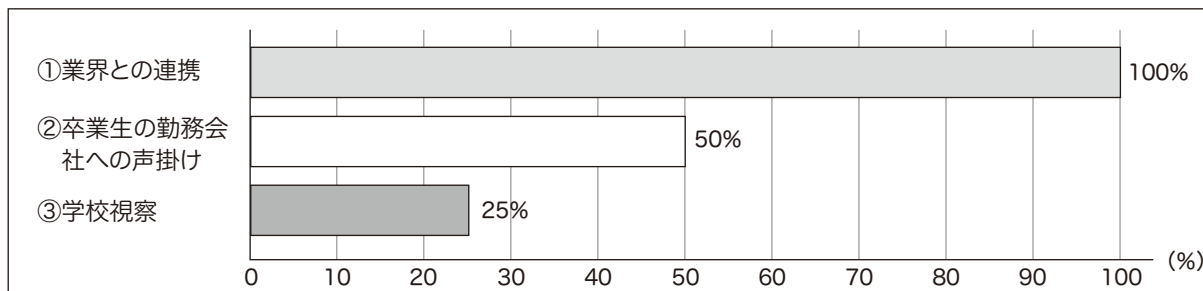
社会人ではなく、学校の生徒で教育の場であるを意識しておくこと。

④期間に応じた工程づくり

⑤無駄だと思わないこと

6.初めて企業内実習に取り組む学校へのアドバイス

ア 初めて企業内実習を行う学校が、実習先企業を開拓するのに、どのような方法で行えばよいと思われますか。ポイントをお書きください。



① 業界との連携

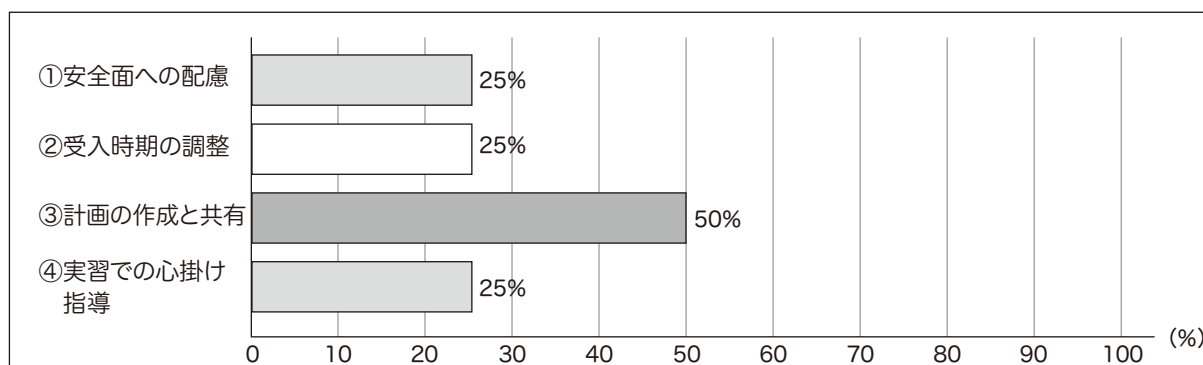
組合等を通して紹介してもらう。

② 卒業生の勤務会社への声掛け

③ 学校視察

企業が学校を視察する機会をつくり実習につなげていく。

イ 初めて企業内実習を行う学校が、企業内実習を依頼するとき、留意しておかなければならないことはどんなことですか。(複数回答)



① 安全面への配慮

安全に対する学生への教育と実習中に安全面について学校がサポートすること。

② 受け入れ時期の調整

受け入れ時期を企業に聞き、調整すること。

③ 計画の作成と共有

実習目標・内容や学校で準備するものなどについての計画書を作成し、企業に提示する。指導目標や範囲などについて、実習前に話し合うこと。

④ 実習での心掛け指導

受け入れ先のルールを守ったり、先輩の指導に我慢してついていくことなど、教えてもらっているという心掛けを持ち、実習に臨むこと。

IV その他

1. 企業内実習以外に、専門学校と連携した取組があれば、どのような取組をされているか、お書きください。

- ①町づくり活動の一環としての連携
- ②地域交流
- ③古民家改修

2. また、今後、企業内実習以外に、専門学校と連携して取り組んでみたいことがあれば、お書きください。

- ①左官工、その他仕上げ工事ができる多能工を育成すること。
- ②職人のなり手を増やす活動

3. さらに、充実した企業内実習にするために、お気づきのことがあれば、ご指摘ください。

- ①安全意識の高揚のための教育を連携して行う。
- ②相互に理解を深める様々な場があれば、連携もスムーズにできる。
- ③周囲の人のために汗をかくことを惜しまず働くことを伝えてもらいたい。